京城日報

十三日夕刊

本紙定價 廣告料
京城太平通一丁目 發行所 合資會社 京城日報社
發行兼編輯人 眞山五郎
印刷人 小川三之介

◎蒙軍鄭家屯に肉薄す 一方宗社黨と四平街にて連絡す

退却せりと報ぜられたる蒙古匪軍は洮南附近に勢力を集中し其の約一千名は鄭家屯を去る百五十支里の丹杜驛より進軍を開始し行く沿道の村落を燒拂ひ今や鄭家屯より約四十支里の地點に肉迫し一方長春に於て失敗せる宗社黨は梁首領指揮の下に四平街に於て南下しつゝある前記蒙古軍と聯絡を執り相呼應して起たんとし目下鄭家屯四平街の形勢極めて不穩なり(大連特電)

◎柴參政官通過

外務參政官柴四郎氏は十二日夜入港の聯絡船にて釜山着同十一時發列車にて安東縣へ向け出發(釜山特電)

▲奉天直行 滿蒙方面視察の爲め十二日東京を發したる外務省參政官柴四郎氏は十四日朝南大門通過奉天へ直行せり

◎柴參政官用向

十二日夜着の連絡船にて外務省參政官柴四郎氏は同夜十一時發列車にて北行せるが往訪の記者に語つて曰く 予は往復三週間の豫定にて先づ奉天に到りそれより松花江地方の狀況を視察して再び朝鮮に來り今月下旬歸東の豫定なるが今回の視察の目的に就いては姑らく明言する能はずとて固く口を噤で語らず(釜山特電)

◎栃內中將視察

海軍省技術本部長海軍中將栃內曾次郎氏は副官海軍中佐小林躋造氏を隨へ十三日朝連絡船高麗丸にて著釜午前十時三十分發列車にて奉天に出發したるが一行は二週間の豫定にて京城に一泊の上奉天に向ひ本溪湖に於ける大倉組の製鐵所を視察しそれより撫順炭坑を視更に安奉沿線の炭坑及び鑛山を視察し大連を經て歸東の途に就く筈なり(釜山特電)

◎上泉中將通過

前鎭海防備隊司令官兼臨時海軍建築支部長として鎭海市街建設者として在留民に深き印象を殘して朝鮮を去れる豫備海軍中將上泉德彌氏は五年振りに來鮮十三日朝入港の連絡船高麗丸にて平泉久彌と變名し飄然として釜山に姿を現はしたるが同氏は同午前十時半發の列車にて北行奉天に向へり(釜山特電)

◎黑澤大佐歸任

關東都督府陸軍部附陸軍大佐黑澤主一郎氏は十三日朝の連絡船高麗丸にて著釜同午前十時半發の列車にて歸任の途に就けり(釜山特電)

◎安東縣郵便局落成

工費八萬餘圓を投じて昨年來新築工事中なりし安東縣郵便局は今回落成せしを以て十三日官民百餘名を招待盛大なる移轉式を擧行せり(安東縣特電)

◎北京政界の現狀

南方派の誤解と唐內閣 張勳の勢力 借款問題

現に北京政府の居も急ぎつゝある問題は副總統の選擧に非ずして寧ろ內閣承認問題なり元來副總統の選擧は國會議員三分の二以上の出席を必要とする多數の議員は到底急に來京すべくも非ず差當り三分の一を以て決定し得べき內閣承認案を通過せしむるに全力を注ぎ居れり

▲內閣員の顏振中には多少の變更ありとするも段內閣の成立は疑を容れず南方派の議員連は段祺瑞の裏面には袁黨軍隊を打て一團とせる優勢なる武力を有すべきを慮り輕々しく段一派に反抗し得ず段一派は南方派を目し相變らず袁黨として排斥論を唱ふるものと思ひ腫物に觸るゝが如き態度を取り雙方共一種の誤解を以て相對峙せり去れど實際の眞相は段祺瑞の後方には世間が想像する如き兵力なく南方人の考へも飽くまで段一派を惡むものに非ず兩者の一方が此の眞相を看破し得るの時期に到達せば形勢亦大に變化すべきものと察せらる

▲唐紹儀は自ら南方派の首領に任じ大に自尊自重の傾きあるも國民黨の議員中には寧ろ餘りに快しとせざるもの多く彼は文明の假面を被りたる俗物なりと冷笑せる向きも少なからず故に將來段と相持抗して政權爭奪を爲すが如き事ありとせば段も唐も共に政界より隱遁し新に別個の者を推薦して內閣を組織すべしと穩するものさへあり此の點より見るも今次段內閣の成立は異を容るゝの餘地なきが如し定武上將軍張勳は現に六十營の大兵を擁し北京政府に對しても國民黨員に對しても頻りに恐喝的威嚇的の言動を爲しつゝあるが其の眞意は滿足に

▲六十營の軍隊を 養はんが爲めにして此の軍事費の供給さへ充分ならば段派ともなり南方派ともなり如何樣にも變化すべきは言ふ迄もなし彼が長江一帶に於て大勢力を有するが如く傳ふるは比較的優勢なる軍隊を擁するが爲めにして現に馮國璋の如き僅かに五千の兵を擁し居るに過ぎず張勳と比較して遙かに遜色あるは止むを得ざる次第なり米國は既に五國借款團を退くに際し支那の政治借款には應せざる旨聲明したる殊に現在の借款團は獨逸を除外し新に米國を加入せしめんとするを以て米國の立場としては甚だ心苦しき次第なれば

▲米國は此際別に 新シンヂケートを組織し其の一員として活動すべく日本側に對し要求中なりと聞けり支那の財政狀態は外債に依るに非ずんば到底維持し得ざるを以て多少條件に不利なるものありとも忍んで借款の成立を要すべく遠からず確的成案を見るに至るべし云々

◎奉天屯田計畫

支那政府は多年移民を東三省の最要政策として奉天省は既に將軍時代に屯田計畫を立て已に其章程を定めたるも實行に及ばずして段芝貴任を去りたるが張督軍は蒙匪紛亂より奉天省邊境防備の太だ急なるを悟り段氏の遺策に據りて近く屯田案を實行せんとせり又黑龍省に於ても朱將軍の時も同樣の計畫ありたるが畢督軍は急に之れを實行す可く屯田費一百萬元を支出せんことを最近國務院に電請したりと(奉天)

◎奉天洋元使用

幣制統一と洋銀鑄造

奉天省は頃に幣制統一の爲め大洋元を流通せしむ可く張省長が財政部の命に由り官造の收支に皆大洋元を使用せしむることゝせるが之に就き民間側の商會總理、官銀號劉總辦等は王財政廳長と會議の上大洋元本位を以て奉天幣制を各省と統一せしめんとする財政部の方案は最も時宜に適せる者となし其實行法としては現在市場に流通する小洋票は一千萬元に降らざるに鑑み大洋票一千萬元を以て之れに代へんとするは太だ困難の事情あれば先づ當省に於ける大洋票の發行の小洋紙幣を以て大洋元に交換し換辦法に倣ふて銀行及び銀號打步交換せしめ大洋に交換せんと望む者には打步附にて大洋に交換し其一元以下には猶ほ小洋を以て而して此等は皆規銀の本位貨として北京、上海等に爲替として送りして外國紙幣に交換し得ることゝし斯くて漸次紙幣を回收し紊亂極まる市場を大洋元に統一したり猶官造側に於ては愈大洋使用案を實行する爲め昨今奉天造幣廠に於ては毎日大洋六萬元宛を鑄造し其額已に百萬元に達したりと(奉天)

◎東淸鐵道大增收

東淸鐵道は歐洲戰爭の結果昨年來非常の好成績を擧げつゝあるが今本年一月より去る五月中に至る迄の成績を聞くに乘客數八十萬四千六百八人にて昨年同期より十八萬五千一百八人を增し手荷物二十一萬布度にて昨年同期より九萬九百布度を增し又各種貨物は七千二百八十三萬九千八百布度にて昨年より一千六百三十八萬八千八百布度を增し此等總收入は二千零四十五萬三百七十四留にて昨年同期に比し實に六百九十萬二千三百二十三留の增收なりとは驚く可し(長春)

◎鮮米露國輸出契約成立

五十萬布度=十二日手續を了す

仁川精米業組合より鮮米輸出に關し請願書を提出したるが其筋に於ても其意を諒とし可及的便宜を與へられ組合長奥田貞次郎氏は農商務省との間に於て賣買契約を成立すべく先般來毎日總督府に出向き一方仁川當業者の結束を鞏固ならしむべく殆んど寢食を忘れて奔走したる結果愈々今回五十萬布度の商談纏まり其受渡場所を浦鹽、神戶とし來る九月より十二月迄に引渡を了する事に十二日奥田氏の手に依り仁川精米業者辻川、庄野、奥田、力武、大田、木浦の木村諸氏との間に契約手續を了したり鮮米輸出に關し其筋に請願書を提出せしは五月下旬にして其當時は相場も殆んど二要の鞘あり一方林粹、玄米供給を依賴せし東拓會社は已に其手持米の大部を賣却して殘米一萬石に過ぎず其爲め當業者の意見も區々たるものあり輸出米は前記一萬石を東拓會社に仰ぐ外は全部仁川定期米を以て充當する筈なりと

◎麥作は減收乎

本年度の朝鮮麥作は目下當局にて實收高調査中に屬し未だ精確の數字を擧げ難きも當初豫想は頗る良好なりしが六月以來の霖雨にて全北忠南全南方面に水害多く甚しく減收を來せるに付到底豫想高に及ばざるは勿論平年以下の作柄を觀測されつゝあり

◎慶北陸棉作柄

慶尙北道最近調査にかゝる陸地棉第二回作柄調査は左の如し

▲氣象概況 六月二十五日より七月二十三日に至る三十一日間の平均氣溫最高攝氏二十六度四分最低同十九度九分平均攝氏二十二度七分にして之を前年に比すれば最高攝氏五度五分最低攝氏七分平均攝氏九分の低下を示せり

▲生育概況 前述の如き天候に依り蔓葉軟弱となり雜草著しく繁茂せしも適時除去するに由なく從て中耕施肥等の手入不完全なりし爲め生育遲々として進まず昨年に比し約十五日の遲延を呈せり又發芽當時炭疽病に侵されたるもの及び降雨の爲め下部の葉面に泥土附著し枯凋落下せるもの多きも生育は概して中等なりと

▲病蟲害 炭疽病の發生は義城郡に最も多く發芽當時是が爲に廢作したるものありと雖も棉の生育に伴ひ減少し各郡共被害僅少なり蚜蟲は局部に發生を見たるも蔓延するに至らざりき又六月中旬以來雨量多く河水氾濫し幾分水害を蒙るものありしも棉作地は一般山麓の傾斜地に多きを以て被害僅少なり

◎全北秋蠶掃立

去月二十日を以て大頭山風穴より出穴したる秋蠶種は道內所要の分約二千七百七十枚に達し發生步合も甚だ良好にして八九割の割合なるが其の後の經過も至つて宜敷く尙ほ掃立を八月一二日中に行ひしは前年より桑葉の發芽遲かりし爲めなり

◎怠納者三万人

朝鮮第一の不成績

京城府の本年度特別稅第一期分の徵收成績を聞くに納稅告知書を發行したるもの特別戶別稅人員三萬三千百八十三人此稅額二萬七千百十六圓、營業稅人員一萬一千四百五十三人此稅額四萬六千三十一圓、雜種稅(車輛、乘馬稅、畜犬稅)人員七千五百八十一人此稅額一萬五百九十一圓に對し七月末日迄に納入したるもの特別戶別稅人員一萬三千五百三十五人稅額一萬二千四百四十六圓營業稅人員三千八百十五人稅額二萬三千六百七十圓雜種稅人員一千八百三十八人稅額二千九百八十八圓に過ぎず府に於ては府廳及び龍山出張所の常設金庫派出の外殊更に臨時に三箇所の常設金庫員派出所を設け或は金庫の收納時間を延長し或は納稅告知書の送達を約束郵便を以てすることに改め其の送達を迅速ならしめ相當納稅の準備期間を與ふる等種々納稅者の便宜を圖ることに力むるにも拘はらず如此未だ豫期の納稅成績を收むるに至らざるは甚だ遺憾とする所なり三箇所の臨時金庫員派出所も豫て納稅告知書に附記し置きたる通り八月十五日限り之を閉鎖すると同時に未納者に對し督促狀を發付する豫定にて目下其々準備中に在り依て八月十五日以後は臨時派出所に納稅し得ざるのみならず督促狀發付後は納稅告知書に依り直接府金庫に納稅するを得ず別に係員に納稅告知書を提出して督促手數料の附記を受けて金庫に納入せざるべからざる等の不便あるを以て未納者は督促狀發付に先ち此際速に府廳內、龍山出張所又は臨時派出所(京城銀行內、鍾路消防詰所內、高陽郡廳內)の內何れにても便宜の場所に納稅せらるゝ方得策なるべしと

◎關屋局長容態

其後稍輕快なり

攝州有馬溫泉にて腦溢血の爲め重態に陷れりと傳へられし關屋學務局長其後の容態を聞くに十三日午前大阪より往診せる菊池醫學博士より鈴木土地調査局長への來電に依れば「中風に非ず安心あれ」とあり更に十二日東京より有馬に急行せる吉田總督府屬より東京兒玉總務局長への報告電報を京城某大家に轉電し來るを聞けば「關屋局長は十二日來稍容態輕快にて熟睡中にあり面會は醫師二名により絕對に謝絕され居るに付夫人に面會の上寺內總督及び兒玉伯の御見舞を傳言せしに夫人親戚一同何れも感激し」云々關屋氏の緣邊小林丑三郎博士よりは「兩閣下へ宜しくとの事又關屋夫人より聞き及べる局長の容態は意識は稍不鮮明にて舌の廻りに多少故障あるも京都大阪より菊池博士來診につき此儘順當に經過せば先づ心配はなからん」とあり症狀稍輕快に赴きつゝある如く腦溢血には非ざるべしと

◎栃內中將入京

海軍技術部長栃內海軍中將は小林副官を隨へ滿洲行の途十四日午後九時著入京十五日發北行の筈なり

◎五百木氏通過

五百木良三氏は支那視察の爲め十四日朝南大門通過奉天へ直行せり

平壤

▲平壤米穀相場 近時慶尙地方水害の爲め及び仁川米價騰貴の爲め取引所受渡米買入の爲め先日來目下現物品薄となり先の高値を稱へ極上精白米十五圓五十錢並物十五圓三十錢玄米極上十二圓並物十一圓四十錢なり

▲平南道と傳染病 平安南道に於ける八月十日迄の傳染病患者現在は二十五名にして內赤痢病患者二十一名腸窒扶斯患者二名パラチブス患者二名なりしが八月十二日に至り成川郡大丘面泉岐里李達洙外八名腸窒扶斯に罹り目下自宅療養中なるが之れにて全部患者は三十四名となりし次第なり

▲靜岡縣見學團 靜岡縣教育會の主催に係る滿鮮見學團五十餘名の一行は八月十九日午前四時平壤着直に列車にて來壤市內各學校及び牡丹臺箕子陵乙密臺船橋里等を見學視察の上同日午後三時發列車にて安東縣に向ふ豫定なりと

元山

▲七月沿岸貿易 七月中に於ける元山港對沿岸各地移出入貿易狀況を見るに移出四十一萬一千四百九十圓移入三十六萬三千三百六十七圓計七十七萬四千八百五十七圓に上り前月に比し移出五萬五千五百六圓の增加を示せりと雖も移入八萬六千二百五十三圓の減額に依り結局總高に於て三萬七百四十七圓の減退となれり而して貿易品中主要なるものを擧ぐれば米粟緞布金屬及び同製品煙草(移出)鹽鯖其他鹽魚明太若目麻布葛布(移入)等なり

▲七月鐵道貨客 七月中元山驛に於ける鐵道貨客狀況を聞くに貨物は發送二千七百二十四噸到著三千八百八十二噸にして前年同期に比し發送に於て約三百噸(局用品及び工事用品を除く)到著に於て約一百噸何れも增加を示し旅客は乘車四千二百二十二人降車五千九百二十三人賃金計九千一百二十九圓五十七錢に達したるが之れを前月に比する時は出稼苦力の團體通過頻繁なりしと避暑客其他長距離旅行者の多かりしに原因し收入に於て約二千圓の增加を示せり

▲稻垣工務課長 咸鏡線視察の爲め十日夕來元したる鐵道局工務課長稻垣技師は十一日永興に出張同方面の視察をなし十二日朝鐵路歸任せり

▲岡本檢事正 目下管內視察中の岡本檢事正は十二日文川より鐵路來元せるが元山の視察を終りたる後更に江原道に出張の筈

▲新任小學校長 元山尋常高等小學校新任校長平間一男氏は十二日夕來任せり

▲新任會計掛長 今回元山理事廳會計掛長を命ぜられたる湯本要之助氏は十二日大邱より著任す

淸州

▲夏季講習會開催 忠北道內各學校鮮人教員の夏季講習會は十四日より二十八日迄十五日間淸州普通學校にて開催のことゝなり普通學校教員三十三名を第一組として小河原視學中村淸州普通學校長等之が講師となり第二組は各私立學校教員二十八名にして第一組各講師の外忠北道學務係立野杉浦道書記の各分擔講義をなす筈にて教育及び教授法、算術、國語、體操、農業の各學科を毎日五時間宛講義することゝなり尙科外講話として各名士の講話ある筈なり

▲櫻井隊長歸任 櫻井憲兵隊長は十二日午後七時淸州著歸任したり

▲小河原視學來淸 別項の夏季講習會講師として總督府小河原視學は十三日來淸す

▲秋蠶良好 忠北秋蠶は五日より七八日頃迄に全部の掃立を了したるが發生頗る良好にて其後の發育甚だ好成績なり

大田

▲取扱開始 大田沃川間改築工事の爲め元增若停車場にて乘降客取扱を爲す事と爲り居れるが同所行き貨物を取扱はざる爲め一般に不便を感じ居たりしも七月十一日より便宜貨物の取扱を開始するに至れり尤も急行列車にては取扱を爲さず

▲市內米況 仁川現米渡しの爲め大田在米の輸出盛んなりし爲め在米拂底の結果は鳥致院其他より輸入をなし消費米の調節を取り居るも是れ又各地持主の昂騰を豫想し賣り惜みの爲め拂底を生じ消費米一等石十七圓二等十六圓を呼べり而も地方及び奥筋の荷動きなく廻米多からざる限りは尙騰貴の模樣なり

▲分隊長歸田 村田憲兵分隊長は轉任挨拶の爲め十一日公州に出張せしが十二日歸田せり因に同氏は後任者に引繼を了すると同時に休暇を取り家族を纏め歸鄕の上直に任地に向ふ筈なり

▲金氏來田 金應元氏は全州よりの歸途來田せしを以て金郡守を始め五六の人發起となり讌會を開く筈

全州

▲全州水泳 全州公立普通學校職員は來月來水泳の練習を爲すべく附近の淺瀨を選み毎水、土曜日猿木守備隊長指範の下に水泳の練習を試みつゝあり

▲全州富豪移轉 百萬長者と目されたる大地主白南信氏は農事經營の都合上本部を裡里に移すべく前年來計畫中の處の設備漸く成立を告げ去る十二日全州市民の名望家二百餘名を招き引き揚げの宴を張り愈十三日來移の準備に取掛りたり

釜山

▲學校組合會議 釜山學校組合にては來る二十一日評議員會を召集し大正四年度歲入出決算及び大正五年度戶別割賦課額等に對する異議申立に[illegible]協議すべしと

▲牟田口社長歸釜 朝鮮瓦斯電氣會社長牟田口元學氏は同會社總會等の爲め過般來東上中なるが來る二十日頃には歸釜の豫定なりと

▲朝鮮銀行釜山出張所昇格 朝鮮銀行釜山出張所は來る九月一日より支店に變更することに決定したりと

大邱

▲慶北憲兵分隊長異動 尙州分隊長は京畿[illegible]に榮轉、前金泉分隊長は尙州分隊長に、前咸興分隊長は金泉分隊長に、山分隊長は倭館分隊長に轉補さる

▲慶北私立學校講習會 慶北道廳にては十四日より二週間に亙り慶北各地私立學校教員講習會を大邱公立小學校內に於て開催せり

倭館

▲播種狀況 慶北倭館地方は水害を免れたる水田及び大豆田の成育頗る良好にして最も打擊を蒙りしは煙草田にして殆んど全滅の悲境にあり

▲金融近況 近來水害地復舊工事資金の需要を喚起したると米穀俄然一割五分方騰貴したるとにより市場取引一時活氣を呈し金融も又活氣を呈するに至れり金利は內地人普通三分鮮人間六步

▲市場穀價 倭館市場最近穀價は玄米十一圓七十錢大麥三圓七十錢小麥六圓十錢大豆七圓九十錢にして大體好氣配なれど取引多からず

永川

▲一般金融 慶北永川地方は昨月中旬籾一石六十八錢の昂上を見たる結果貯米を有する大農民の放賣となり幾分の資金決濟は行はれたれども金融は漸次緊縮狀態を持續しつゝあり

▲市場近況 米價昂上の爲め相當の取引はありたれど河水增加の爲め僅かに慶山迄の輸出に止まりしが五百石小麥大豆各百石ありたるのみ市場取引閑散なり

競賣入札

本社建築場板圍及附屬丸太貨共來る八月十六日午後一時本社に於て競爭入札を以て賣却す

八月八日 京城日報社

汽車時間表(七月十日改正)

(行南) (行北)

尾崎氏の試驗飛行

新著のク式百廿五馬力複葉機ーを破損せる爲め飛行を中止せり

十三日朝大阪練兵場に於て尾崎行輝氏は新著のク式百二十五馬力複葉飛行の初飛行を爲せしも滑走中スロツトレバーの故障にて地面に衝突しプロペラーを破損せる爲め飛行を中止せり同飛行機は支那革命黨が米國より購入せる最新式飛行機なるが氏は近日再飛行を爲す筈なり（大阪特電）

鱶の大群に襲はる

危險なる夏期の青島近海

去る五日山東鐵道運輸課の某々等三名は鱶釣りの爲めシヤンパン一隻を雇ひて青島灰泉角より約二町の外海に出で魚釣に餘念なく針を垂れ居りしに午後五時頃に至りて外海より長さ三間餘の一群の鱶族來襲すると共に恰かも三四町に亙る廣さに散兵線を張りたる如く等距離の間隔を保ちつゝ揃ふて水面に頭部を現はしては水を吹き又水中に沒頭しては前進し追々釣船を包圍せん作戰にて進軍する如く見ゆしかば三名は全く血相を變へ如何にせばやと評議取々なりしも到底シヤンパンの速力にては逃げ能ふべくもあらず思案に盡き危な近づき船を轉覆せんとならば止むなしと既に覺悟の臍を定めたるに支那船夫は騷ぐを制止し舒に鱶の魚群をして無事通過せしむべしとの多年の實驗的防禦法を提議したれば去らばとて一同其通過を待ち居りしに鱶は加藤島方面に向つて前進を續け遂に水面に頭部を現はさとりしと悲ねて日曜日午後一時頃又々鱶の大群前日同樣外海より散兵線を張りたる如くに押し寄せ來るを見受けたるものありとの事なるが獨逸時代より夏期は鱶群能く近海に押し寄せ七八年前一日本人は鱶に噛み付れ辛ふじて逃れたる事ありと（青島）

舌を根元から切り落さる

支那匪徒に襲はれて千八百圓を掠奪された內地人の遭難談

去る六月三十日風錢買ひ出のため山東省高密縣地方に赴き池家莊にて三百餘名の支那匪徒に襲擊され所持金千八百圓を强奪され重傷を負ながら▲九死一生を得て逃げ歸りたる島根縣田崎忠五郎（三八）福岡縣田中丑松（四十）同縣古賀武藏（三三）香川縣丸山鐵造（三二）の四名は一週間程前青島病院を退院し去る十日午後門司入港の薩摩丸にて歸來し門司に上陸したり往訪の記者に對し當時の慘狀を交々語つて曰く吾等は一昨年より青島に滯在し高密地方を根據として▲支那羶錢買に從事しゐたる者なるが遭難の當日は資金千八百餘圓を所持し資本主なる豐前行橋町生れの小野利三郎、高橋存八、池田盛雄等都合七名の一行は汽車で坊子驛に下車し支那人の案內を一名備ひて奧地にと進みたるが約四十淸里にして池家莊といへる村落に到著したれば▲案內者と別れ 羶錢買出しに從事したる折りしも俄に鯨波の聲起りたるより何事ならんと前方を見やればコハそも如何に三百名に近き支那匪徒が各々銃劍鉈等の武器を手にして我等を取圍みて猛烈に攻擊する物凄さは譬んに物なく其の中の敵の彈丸に當りて七名が前後して打倒るゝを見るや匪徒は▲浮塵子の如く 列を亂して突貸し來り蟲の息になれる小野の懷中より千八百圓を掠奪したる後高橋を殺害したり其際古賀と田中は隙を見て逃走したるが山崎池田丸山は兩手を縛られ丸山は頭部に重傷を負ひ瀕死に迫れるを慘酷にも舌を引張り出して根元よりプツリと切落し池田は火焙りにされて▲臀部に大火傷をなし山崎は鼓膜を破られ何れも人事不省になりゐたるが翌朝痛みを感じ正氣付けば山崎と丸山二人は淺き池の中に投棄されあり丸山は舌を切斷され山崎は鼓膜を破られ居る事とて言語通せず止むなく筆談にて逃走の相談をなし鮮血に塗れし小野、高橋兩人の死體は其場に放棄し艱難辛苦して漸く線路に出で茲にて計らずも古賀、田中と出合ひ▲事件の顚末を憲兵隊に屆出でしかば同隊よりは伍長以下三十六名直に遭難地に急行したるが此時匪徒は風を喰つて何處にか姿を消し三村落は何れも空家となりゐたりと（門司支局）

懸賞金二千圓

全南役場の豪農徐道鉉（六五）は過般强盜團の手に慘殺されたる爲め徐家の遺族は右犯人を逮捕若くは所在を密告したるものに對し現金二千圓を贈呈する旨役場分遣所を經て發表したり（木浦特電）

大阪に虎列拉

大阪に眞正虎列拉發生し又京都府下に赤痢流行の兆あり（大阪特電）

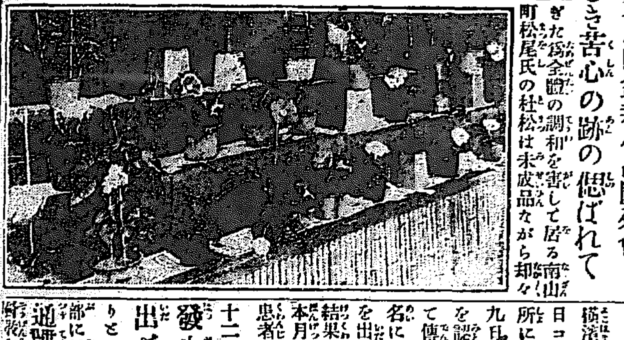
天命丸乘組員悉く無事

十日マルセーユ附近にて擊沈されたる土佐白洋汽船會社所有天命丸（三三二四噸）の乘組船員一同無事の報あり

とりぐの趣

第二回盆栽小品陳列會 何れも床しき苦心の跡の偲ばれて

黃金町三丁目淸香園演藝部では第二回盆栽小品陳列會を十三日早朝から園內に開催した出寄つた鉢數は▣四十鉢 ばかりで何れも此の道に苦勞し拔いた天狗連の事とて氣焰も却々高いが鉢物も立派なものが多かつた殊に際立つて目に付いたものを擧げると旭町大石氏の松は鉢の小さいのに岩と松との取合せ面白く大原野の一つ松の面影を現はして居る蛤洞の妹尾の水盤は見ろから凉味掬すべき▣手際で ある水島の上は西洋菖蒲の極めて倭生なのを一面に植込んで居るのも手際である、蛤洞宗松氏の石割松も大變に面白いものであつた光化門中川氏の杜松は中分なき野趣なれど右に出た幹に餘りに力の過ぎた爲全體の調和を害して居る南山町松尾氏の杜松は未成品ながら却々▣立派の ものであつた、鐵路生氏の木賊は車前草との取合せ極めて面白きも鉢の分厚なのと其の色の澁んで居るのは甚だ引立たなかつた旭町三島氏の胡蘆は盆栽としては珍品たるを失はない大和町長市氏の蟻通は野趣橫溢愛すべきものであつた▣朝顏會 も開催せられ持寄り七十鉢ばかりありしが第一回の事とて準備整はず審査に及ばず次回の日曜日に第二回朝顏品評會を開く筈である



宙に迷た淸潔費

何方へ支拂へばよいか

釜山淸潔社にては過般來同社營業人小林彥一と東京の松本芳藏との間に紛擾を釀し彥一は集金上に關し自分の調印ある受領證にあらざれば料金を渡すべからずと新聞に廣告すれば芳藏は是に對し彥一は自今月給五十圓にて雇入れ營業上の實權は資本家たる自己にあらざれば料金は彥一に渡すべからずと廣告し互に自己の權利を主張するが爲め釜山市民は何れに對して其の料金を支拂ふべきやに迷ひつゝあるが芳藏の代理人たる釜山府土城町二丁目林豐外數名が去る三日來同地大廳町の彥一宅に到り暴々帳簿を檢査し又は淸潔社の印章を押捺して料金を取立てたるは不都合なりとて去る十二日彥一は林豐の外菅原太五治、越智吉三郎、森滿一、今村種雄、山根重次郎、石丸榮吉、今井田熊吉の七名を相手取り家宅侵入、詐僞取財、印章盜用、私書僞造行使、恐喝、業務妨害等の告訴を釜山警察署に提出せり（釜山）

銃聲

靑葉がくれに一發又一發 朝鮮獵友會員のクレー擊ち

朝鮮獵友會では例月の恒例に依つて十三日午前十一時から靑葉の林に包まれた龍山三阪通りの朝鮮獵友會射擊場で會員諸氏の實彈標的射擊を開始した、各自携帶の銃は何れも御自慢の精銳なる◆新式二連銃 とあつて我こそ見ん事腕の冴れを見せんとの鼻息に標的のクレーが螺旋仕掛の機械に依つて中天に高く彈き出されると一人宛交代に指定の位置から覘ひ擊つ採點標準はクレー一枚宛を三回彈き出したものを一個に就て二彈發射し最初の命中彈を二點とし後彈の命中を一點と定めて採點することゝしてある、集まつた猛者の面々は京龍居住の天狗連、久方振りの◆腕試しにと 抽籤に依つて順序を定めた上愈々採點射擊は增戶、小林、松森、早瀨、長谷川、田中、湯淺、瀧川、和田、日置、吉村、增戶落谷、寺山の諸氏の順交代に擊ち出された御連れ走せの勇士も續いて參加してゐたが此內日置氏が滿點の六點を讓ち得、早瀨氏が次點の五點で以下夫れ〳〵の成績であつた、此日も暑苦しく淀んだ朝の氣圍氣に樹立を通して鳴り響く◆銃聲に嚴冬 の獵を忘れず各主人に附いて來てゐる獵犬の數頭が銃聲の度每に狂奔する樣は何時に無く勇ましかつた

漁船も帆船も見逃さぬ

內地虎疫蔓延ご朝鮮の警戒

橫濱港碇泊布哇丸乘客に七月二十七日コレラ患者發生以來同地長濱消毒所に停留中益々蔓延し初發以來八月九日迄の累計は眞症四十三名疑似六名にして停留者中には尙多數の患者を認め精檢中の者三名健康保菌者として傳染病院に收容せる者二名陰性六名を出すと雖も同地に於て防疫勵行の結果未だ他に之が傳播を見ざりしが本月七日俄然長崎市に數名のコレラ患者發生以來病毒益 猛威を擅ひ昨十二日には六十名の患者を發生し死者三十六名を出せるが如き蔓延の兆あり との報に接したるを以て警務總監部に於ては直に各道警務部に通牒して各開港地の海港檢疫を一層嚴密に行ひ且つ右流行地を發して來る船舶は例へ帆船漁舟と雖も各著港地に於て健康狀態を調査し而して同地を發し若は經由して來る旅客は其行先地に於て一定の期間健康狀態を視察する筈尙ほ之が防禦警戒に努め居れり

夫に捨てられ發狂せる女

無切符にて乘車せんとす

十二日午後零時四十分仁川杻峴驛發南大門行列車に年齡三十歲前後の女が三四歲位の女兒を背負無切符にて驛員の制止するをも肯せず無理無體に乘車せんとする樣子の異常なれを構內見張の巡査が認め最寄交番に同行取調ぶるに本人は熊本縣生れの森ふみ（三三）と云ひ去る六日內緣の夫同縣生れの岡村初太郎に私生兒千代（三）を殘して置去りにされたる爲め途方に暮れ發狂したる哀れの女と知れ目下本署に保護中（仁川）

◉阿片密造者捕縛 住所不明李鳳河（三一）慶北興海宋倉河（三五）義城郡安鍾華（三一）興海金龍業（三一）は大正五年七月頃阿片密造の目的を以て慶北靑松郡縣西面山中にて阿片原料たる罌粟を栽培したるが成績不良なりし爲め更に靑松郡沙谷洞に於て一鮮人が百五十坪の罌粟栽培せるを聞知し是を買受け阿片に精製したるものを隱匿持參して義城邑に宿泊中其筋の探知する所となり直ちに捕縛の上檢事局に送らる

◉脅迫から露顯 咸南永興郡長興面仁興里劉文愛（二二）は去る七月廿日夜同郡興面太和里李炳道（二九）を自宅に宿泊せしめ其の所持金三十一圓を竊取し翌朝李炳道が騷ぎ出したる際夫れは前夜隣村の鮮童來合せゐたれば其者の所爲ならん同行して金錢を取戾し來るべしと欺き福興面新興里の山中に連れ行き脅迫したる上口緘めをなしたるも遂に發覺して此程檢擧さる

◉口は禍の門 江原道平康郡縣內面上元里金光變（四七）は七月二十九日午前九時頃酩酊して同里を通行中附近の宋良鎬（四七）に對し汝の妻道春と縣は他の男と關係し居れりと罵りたるを傍に居合せたる同里の李宗敏は常に光變と不和の間柄なるより良急に卽捨して共に宿合はせたる棒を以て光變の頭部を亂打し頭蓋骨を骨折せしめし爲め光變は數日の後死亡するに至り兩名は其筋に檢擧さる

讀者文藝

（一等には廿錢の郵便切手を呈す）

マ物は付け 非常識なものは

○電報の宛名に樣付け（一等） 龍山鐵道官舍 山家香公
▲佛前で拍手 龍岩浦 千考
▲門標に某縣士族 京城 凸郎
▲赤い紳縮細 同 三苦
▲痛み先で高笑ひ 釜山 因雄
▲葉書に親展 新義州 五郎
（課題ご募集規程は欄外にあり）

◉嬰兒を壓殺 全北井邑郡龍北面米湖里鄭鍾植の母金文洙（三七）は七月八日夜私生兒を分娩して卽時壓殺したることを發覺し八月二日泰仁憲兵分遣所に檢擧さる

◉大金を盜む 慶南馬山午東里尹愛織河聖洪（三）は七月三十一日夜同地俵町李鍾護方に忍び込み現金五百八十圓九十五錢入りの手提金庫一個を竊取し婦家其他にて豪遊中馬山署に引致さる

◉笞三十 平壤府箕林里尹利澤（四二）同景昌里李根涉外二名は去る八日午前九時頃大同郡林原面池在善方にて目々と稱する賭博を開帳中平壤署の警官に取押へられ取調の結果各笞三十宛に處せられたり

灘縣城頭の飛行

八百米突の高度＝阪本壽一氏操縱

革軍航空隊附屬飛行機は六七の兩日午前七時半より約二十分間二千五百尺の高度を保ちつゝ灘縣城內外の上空を飛行し懸て城內に向て「航空隊」の三字を染め出せる五色の紙を撒布せしが革軍兵士のみならず城內外の人民に至る迄非常に感喜し之さへあれば百萬の敵襲擊し來るも恐るゝに足らずと爲し居れり因に該飛行機の操縱者阪本壽一氏の談に依れば當地の氣流は最も飛行に適し未だ曾て斯の如き好氣流に遭逢せしことなきなりと（青島）

●屠獸違反 平壤八千代町金錫現（四五）は七月五日午後八時頃黃金町……覺し八月八日平壤署に於て屠獸違反者として各罰金一圓に處せられたり

……者に引致され十一日仁川署にて何れも拘留三日宛の處分を受けたり

竹元、田中秀治郎、同てる、同しづ、同……の、同浩、櫻井義三郎、同しづゑ、同……みさを、野……

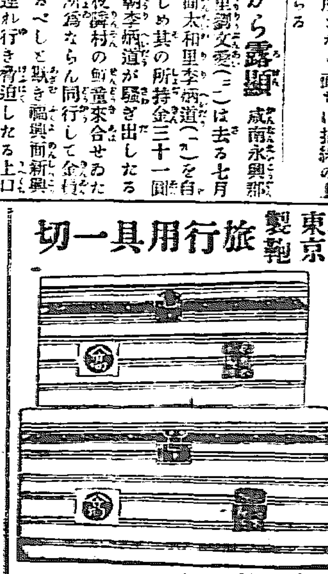
良三、柴四郎（二等）秋元忠、早川松次、同梅子、同義文、西村米吉、同もと、……ひで子、仲瀨時枝、

讀者文藝課題及募集規程

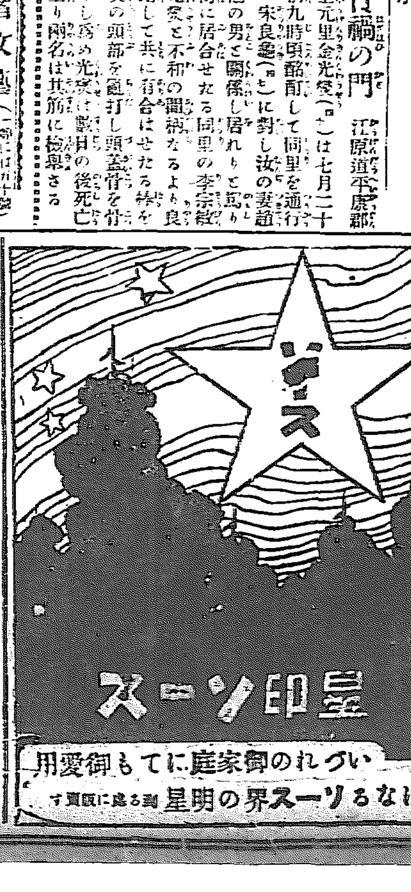
▣募集規程 ▲用紙は端書又は同型の洋紙一枚每に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事……

曇但少雨 ▲八月十四日……

東京製鞄 旅行用具一切



御德用の支那鞄 製造一手販賣大勉强 魔法瓶中瓶取扱 京城本町一丁目 旅行用具 高木店 電話一三四番



いづれの御家庭にても御愛用 になるソーリス界の明星 到る處に販賣す

星印ソーリス

尾崎よつけ 村井弦齋先生命名實驗證明 尾崎糠精 全國藥店に有 販賣元 東京中澁谷町 尾崎兄弟商會

比較は最良の撰擇法なり!! サクラ正宗

サクラ正宗 京城明治町二丁目 山邑京城支店 電話 四一四 八四五 九四番 振替京城五七番

銚子港 田中玄蕃釀造 ヒゲタ醬油 代理店 京城明治町一丁目 山邑京城支店

用に供したる廉にて又も
泰興(三七)は七月十三日自家飼養の犬一頭を撲殺して食用に供したる事發
午前二時頃同樓を足抜し京城南大門停車場より乘車せんとせるを追手の

井萬吉、小野正、小崎稔、北島は
吉見今二、同花子、同智之、池田
十二日夜釜山 (一等)濱面又助、白水久彌、五白木

十錢書籍券を呈す(但何書何號と明記に限る)

□蠅を退治に 魚の骨と腸 を集めて歩く京城府廳

蠅の減る法塵芥箱の整理

魚類の臟骨の始末は蠅の發生に大關係があるばかりでなく、夏季にあつては直に腐敗して臭氣の烈しく、不注意な魚屋の近所に住む人達は洵に迷惑千萬な次第である

◆迷惑千萬

これに就いて京城府廳の衛生實行部では市內の魚屋、料理店、飲食店に臟骨類の容器を備へ付けさせて置いて、それを毎日又は隔日に寄せ集めて特別處分を行なひ蠅の發生を防いでゐる。毎日南大門驛に荷上される魚類は多い日は二千貫少ない日でも

◆千二百貫

を下る事は無いのである、隨つて之れより生ずる臟骨類も決して少なくない、魚類を最も多く使用する所は蒲鉾屋であるが目下京城市中に八軒ある、此の蒲鉾屋が日々使ふアラは朝鮮人をして早朝から競ふて飲食店から買ひ集めさせて居り、又は

◆豚の飼料

として買ひ取るものもあるが、之等は極めて少數である、府廳で寄せ集めてゐる箇所は約百六十戸位で此の特別作業は蠅の發生防止に頗る有効であるさうだ而して亦一般にあつても魚の腸などは總べて所嫌はず棄てるやうな事をせず塵芥箱に必らず容れる樣に注意すれば蠅はめき〳〵減つてゆくのださうである

◉昂つた米相場

小賣相場は當分上げぬ

白米の相場が先達て中からヂリ〳〵と上向いて來ました事は數日前の本紙に記した通ですがその後ます〳〵騰貴を示して來て十二日になつて漸く一石に就いて三十錢方の値上げを來したが京城市中の小賣商店では當分の間値上げをせぬ事に協定したさうでムいます、先月から見ますと一石に就いて約二圓五十錢ばかり昂がつて居るわけであります、又米の關係筋の人に言はせますと今後新米の出る十月頃まではまだ少しづゝ昂がつてゆく見込みであるさうです

◉學校生徒の雀征伐

四月から七月迄に一萬羽

雀が害鳥である事は知らぬ人は無いが殊に近年京城附近には雀の繁殖が多く農作物の被害が非常に多いので京城府では過般府內の各公立學校生徒に命を下して雀の捕獲を獎勵したところが四月から七月までに親雀及び雛雀六千八百二十四羽卵二千九百四十一個計九千七百二十五羽を捕へたが澤山捕つたものは一人で三百羽も捕つた是等に對してはそれ〳〵賞品を贈つたさうである

◉關屋局長に見舞

愛國婦人會朝鮮本部にては有馬温泉に於て關屋學務局長重態の報に接し十二日同夫人宛に見舞の電報を發したり

◉平壤と蠅の買入中止

平壤府にては六月二十日より本月十日迄の間に買入れたる蠅の買入高は七石七斗四升、合買入金一百七十七圓二十八錢にして本日限り一先買入れは打切りたりと云ふ

神社とお寺と教會

○西本願寺(若草町) 十四日午後二時より雙行會あり講師は山本、松原の兩氏なり、備八時より月曜講演ある由

○東本願寺(南山町) 十四日午後二時より婦人例會あり勤行後說話があります、備八時より三日教あり

○國柱會(初音町) 十五日午後八時より定例修行後伊東講師の法話に次で會員の茶談會あり

○聖公會(南米倉町) 聖公會神學院校長今井壽造十二日夜入京滯在中

○天理教(壽町) 十三日午後一時より月次祭がありました

寫眞 寫眞出張撮影 寫眞銅版・亞鉛凸版 最も公衆的なる技術を以て最も迅速と可成安價を旨とし御高需に應ず 京城日報社 寫眞製版部

嘘ばつかりの休暇日記

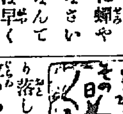
めちや吉畫

凸坊も暑中休暇の間は日記をつけて居ます。この畫の右の方は嘘ばつかりをつけた凸坊の日記で、左の方が眞正の凸坊であります。

(イ)日記でみると毎朝六時に起きると書いてありますけれど嘘です朝は九時に母樣から起されます。

(ロ)毎日お復習するのも嘘です。本は机の抽斗へ藏つてしまつて母樣がいくら八ケ間敷く云つても西瓜や甜瓜ばかり食べてゐます。

(ハ)母樣の云ふ事も肯かずに蟬や蜻蛉とりにゆく樣に、御覧なさい日記にはお使ひに行きますなんて嘘を書いてゐます(ニ)晩には早く寐た事は一度もありせん、夜更しして少さな兒を苛めて居ます。凸坊の休暇日記はこの通り嘘ばつかりです。讀者諸君の中にはこんな凸坊はないでせうね。



△菊冬瓜 冬瓜を一寸四角に切りて皮をとり五分位のあつみにして四すみを少しづゝ切り落し一分位の立横の切り目を三分位のあつみの處まで切り込みて鍋に並べみりんと砂糖を加へて落ぶたをして煮立てやはらかになりたる處にて鹽を少しくばら〳〵とふり又十分やわらかになるまで煮て其まゝ冷まし燒物などの付合せ又は口取用になす(青木はつ子)

番茶のあと

朝鮮に住んで居つて一番心地の惡いのは朝鮮人がヘツ〳〵と何處へでも唾や啖を吐き散らす事である▲現に此の前の木曜日の晩パゴダの音樂を聞きに行つた或る婦人がベンチに腰を下すと其處にベツタリと啖がして有つたので其の婦人は大變氣持を惡くして歸つて行つた▲朝鮮人が無暗に啖や唾を吐き散して居る事は單に氣持が惡いばかりでなく公衆衛生から見ても極めて危險であるから何んとか當局から取締つて欲しい▲それと同時に各個人も充分注意する事も必要であるが現に唾や啖を吐いてる朝鮮人を見たなら誰でもさう云ふ事を爲てはよく無いと親切に注意してやるが宜しい

醇良清酒

仁川本町三丁目 增本酒店 電話一〇九番 振替京城六一九番

美容術と毛の 東京美容院

色が白くなる藥 のむでもつけてもきかぬ方は 一度院長北原十三男の洋行研究になる技術を試みられよ

漂白式白色料 性來色の黒き にきび しみそばかすに特能あり 其他優良な毛生劑脫毛劑 やせる藥、ちゞれ毛を直す藥 料等毛と顏の藥品化粧品一切

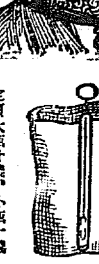
東京神田駿河台袋町 電話本局一七七一番

最上醬油 京城本町三丁目 田中支店釀造 電話七六四番

製造元とのやくそくで 砂糖、麥粉、茶、金巾、燐寸、石油、洋燭、鍋釜、紙、乾物、罐詰、ビール、サイダー、葡萄酒、清酒、醬油、染粉、足袋、其他日鮮人向雜貨食料品 割の安い品そろいの 大おしろ屋 仁川本町 河野本店 電話二八一

目ニ見ヘテズン〳〵キク シュマズイタマヌ 井上博士ノロート目藥

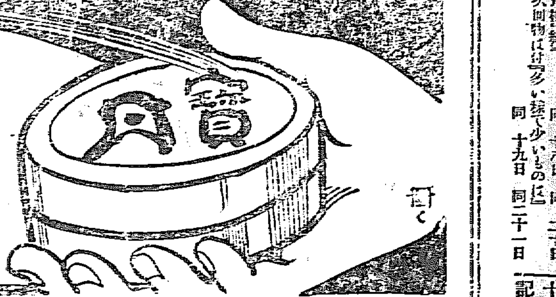
登錄商標



ロートには目を拭くため左圖の通りの消毒した布と新案の點眼器を添てある

定價六瓶廿錢 小瓶十錢 本舖 東京 大阪 山田安民藥房 全國有名藥店にあり

イケダ小兒病內科醫院 池田季雄 京城三越呉服店前(入る旭町四丁目) 電話 醫院一二三四番 自宅八八〇番



一夏の 旅行にも 執務にも 家庭にも 外出にも 缺くべからざる 守田の寶丹

朝夕缺さず一匙二匙服用せば ▲頭痛眩暈 ▲船車酒の醉 ▲食傷冰あたり ▲氣附毒消 ▲下痢腹痛 其他惡疫を防ぎ日射病に罹る事なく無事安全

定價 金拾錢・廿錢・卅錢・五拾錢・壹圓。卅錢以上は優美なる寶丹匙を添ふ

東京下谷池の端仲町廿七番地 守田治兵衛 振替東京二九八五 各藥店に販賣す

TIGER & CROWN 嶄新冬帽子 品揃 豐富

記念大山たび 冬帽子製造 發賣元 大山合名會社 釜山本町三丁目 電話長九一一番 振替京城九一一番 電略オ又はオヤマ

創業十週年 記念大山たび 二倍もち

宮本武藏

第百二十七回

[illegible]口演 桃川如燕速記

駒飛の佐吉がお雪の身の上に就いて心配して居りました處へ乾兒の太吉が這入つて來て 太『三浦屋の親方がお出になりました』といふから佐吉が 佐『珍りやア什麼も珍らしい方がお出になつた、丁度宜いからお雪様の身の上をお頼み申さう、太吉坐敷へ御通し申して呉れ 太『ヘエ畏まりました』 佐『お嬢様、今参りましたのは江戸吉原京町一丁目の三浦屋四郎左衛門といふ女郎屋の親方でございます、女郎屋の親方といふと大層人聞も悪うございますが仲々固うでない此人は元小田原の北條様の扶持を頂だいた人で、同藩の庄司甚右衛門といふ人が公儀へ願つて初めて吉原といふものを拵らへました、其時に三浦四郎左衛門といふ人も浪人して居たから女郎屋の店を出しましたので、学問もあり武藝も能く出來る佛々の人物でございます、私が元江戸の唐犬組に居りました時分からの懇意で、唐犬組と稲妻組と吉原で大喧嘩をした時私が三浦屋さんの格子先で稲妻組の奴等が得物を持つて押破つて這入らうとするのを美事に喰止めた事がある、其時に三浦屋さんが年は若いが駒飛の親分は好い氣性だ什麼か四郎左衛門と兄弟分の盃をして呉れと仰しやつて其れから御懇意にして居ります、まア飛んだ自慢話をいたしましたが、三浦屋さんならば大丈夫で、頼もしい人でございます、お嬢様を三浦屋の親方に頼めば此も安心で 雪『左様でございますか、何分宜しくお願ひ申します 佐『今私が三浦屋さんに頼みますから』と 佐吉が坐敷へ這つて來ると三浦屋四郎左衛門草鞋を脱いで洗足を済まし坐敷へ通りまして坐つて居ります、堅い人物で 佐『ヲヽ三浦屋の親方能くお訪ね下さいました 四『之りやア親方其後は打絶へてお目に懸りませんが何日も御機嫌好う 佐『イヤ什麼も面目次第もございません、遂々江戸の土地を賣つて了つて恁んな在方へ引込むやうになりました 四『ナニ佐吉さんが土地を賣つたのは稲妻組との爭鬪からで、男を磨く稼業ぢやア立派なものだ 佐『爾う仰しやられると痛み入ります、今度は何方へ 四『エヽ京の方へ暫時往つて歸りに大阪から名古屋諸方廻つて來ました、日外手紙を貰つてあるから足の序でと言つちやア済まないが鳥渡お訪ね申したやうな譯で 佐『アヽ左様で、俺も那れつ切り江戸の様子も聞かず什麼なすつたかと御案じ申して居りました、まア什麼ぞ御悠るり』と佐吉が手厚く待遇す其晩一口飲みなり佐吉がお雪の事を話し、江戸へ歸るなら一緒に連伴て往つて上げて下さるやうといつて頼んだ、三浦屋四郎左衛門も性來の義侠、佐吉の話を聞いて大層お雪に同情いたしまして、其れからお雪に近付きになり、種々な話を聞くと父の仇を討たんため今迄の艱難辛苦、姉弟の別れ／＼になつた話など落もなく話はりまして男泣に泣いた 四『宜しうございます、江戸へ往つて手を遡せば弟御さんの生死も知れない事はございますまい、私が確かにお引受申しました、私の考へでは確かに御無事と思ふ、何事も私にお任せなさい、佐吉さんも安心をなさるやうに』といふので渡る世間に鬼はないといふ通り、お雪も三浦屋四郎左衛門が親切な言葉に喜こびまして 雪『何卒少ない身の上でございますから、何分宜しく願ひます』と頼みまして玆で其晩は四郎左衛門佐吉の許へ泊りまして、翌日お雪を連れて出立いたしました、佐吉も三浦屋四郎左衛門ならば道中危險な事はないと安心して居ります さて日數重ねて四郎左衛門は江戸表へ着し、吉原京町一丁目の我家へ歸つて來る際て手紙が出してあるから、家の者一同途中まで出迎へる、家へ歸つて來て 四『さて皆な、一緒に連れ申したお嬢様は、淺野様の御浪人中で岡崎様といふ方のお娘御だ、仔細あつて俺がお預り申したのだから、お前達も粗末にしてはならない、宜いか 一同『ヘイ 四『什麼ぞお嬢様恁んな稼業の家でございますがお心遣なく在らしつて下さい』と四郎左衛門の親切にお雪も喜こんで三浦屋に世話になつて居ります。

外科一般 皮膚科 泌尿器科 花柳病科
院長 安部修三
京城永樂町二丁目金光教會堂
安部醫院 電話臣一九番

八月十五日九星
舊七月十七日甲申
本命一白北聯大安

●一白 [illegible] ▲二黑 [illegible] ▲三碧 [illegible] ▲四綠 [illegible] ▲五黃 [illegible] ●六白 [illegible] ▲七赤 [illegible] ▲八白 [illegible] ▲九紫 [illegible]

演藝案内

大正館 櫻井町 電話八七三 日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店
八月七日より特別大寫眞 ●伊太利トレント社傑作 ○探偵大活劇『天誅』後編 全四巻 [illegible] ○新派悲劇カチューシャ復活編 全四巻 [illegible]

壽座 京城本町 電話五七八番
東京歌舞伎女優中村[illegible]一座 八月十四日(第十一回目)替番題 ●一番目 第一杉酒屋の場 第二御殿七物語の場 ●中幕 [illegible] ●切 [illegible]

御成座 一町
新派中村[illegible]一行 一番目 女白浪[illegible] 二番目 [illegible]

黄金館 電話一八五二(階上) 二六三七(階下)
○大冒險大活劇『名金』第九編(第十七、十八巻) [illegible] ○新派活悲劇 [illegible]

◎移轉
今般擴張の爲め左記へ移轉す 一般の依頼に應ず
性相鑑定
永樂町二丁目 電話弐參參參
東京性相學會朝鮮支部主幹 隈本修平

十二指腸病
說明書は往復葉書に申込次第進呈
京城府東城町 水田藥院 電話四六三番

義手足
せきずい固定器 脱肛痔バンド一式
京城本町一丁目五一 高野義手足製作所 電話一〇六
新案軽便器丸釣發賣

●月やく
月經閉止(月やくとまり)月經不順にて色々な薬を用ひ効なく御困りの方は迷はず神戸市二の宮町三丁目十三小町屋へ切手を添へ御申越下さい不思議に效く良薬を詳しく御知せ致します

京城日報 第二版

十四日朝刊 (夕刊と合せて八頁)
發行所 合資會社 京城日報社

米國陸軍擴張案

京城日報

米國上院は、過般陸軍大擴張案三億千二百萬弗を可決せしが、是は下院を通過せし國防案より三分の一方巨額なりしを以て、兩院の可決金額に、多額の相違ありたるを以て、結局、兩院協議會に移さるべしとは、當時外電の報ずる處なりしが、今回兩院の互讓成立せりとて傳ふる處に依れば、其額二億六千七百五十九萬弗なりと云ふ。之を曩に上院の可決せし金額に比すれば、四千四百五十萬三千弗の減額を示せるが、此の二億六千七百五十九萬弗こそ、即ち兩院議會を可決通過せし、實行豫算額と見るを得べし、もとより、其の內容は、未だ明瞭ならずと雖も、本案の容易に兩院を通過せしは、主として對墨動員に、刺戟せられたるものあるべし。而して米國陸相の、本擴張案に對する意見なりとして傳へらるゝ所に依れば、無論國防計畫が、其第一主眼にして、扨て論じて曰く、有史以來、何の國か戰爭の歷史を有せざる、吾人は戰爭の實在と、國家の興亡に關しては既に熟知せり、此等の事實は、偏へに熄せざるを以て、將來にても亦然らざるを得ず。所謂軍國主義なるものが、一般政治をして、軍政の下に支配せしむるものなりとせば、其は何等議論を挾むの餘地なきも、米國に於ては、絕對に嫌惡せざる可からず。然れども軍國主義とは、軍事に關する適當賢明なる準備なりと解せば、直に之を肯定せざる可からず。本案は何等、米國傳來の國是に背反せざるのみならず、全然之に合致せり、即ち人口に比較すれば、極て少數なる常備軍と、若干教育を施せる、多數の民兵を得んとするに、過ぎざればなりと。

先づ以て、本案に對する、米國陸軍當局者の意見は、略之を窺知するに足らん。今進んで、其擴張の要旨とする處を見るに、米國陸軍現今の兵力は、正規兵七萬二千人、民兵十二萬九千人、合計二十萬一千人に過ぎざるが今回の擴張、本案に於ては、民兵增員の必要は認められ居らざるも、正規兵約七萬人を增員して十四萬二千人となし、別に四十萬人を以て、編制せらるべき、大陸補充軍なる者を組織し、一旦の際[illegible]兵力を、正規、民兵、補充軍其合計六十七萬一千人となし、今日の三倍三分強に相當する、大擴張をなさんとするにあるものゝ如し、此の新に編制せらるべき大陸補充軍は、[illegible]規兵の補充として、[illegible]に供し得べき軍隊[illegible]によりて維持せられ、[illegible]を遵守せざる軍隊なりとす。合衆國中央政府は、憲法の規定に由りて、民兵の指揮權なく、民兵は單に個人の資格にて、合衆國兵に編入せらるゝの外、中央政府は、憲法に指定せる事項以外に、[illegible]能はざるが故に、今回[illegible]補充兵なる、新兵科を設置するに至りたるなるべし。

以上は、一九一三年來、米國陸軍當局の立案したる、所謂陸軍擴張案にして、昨年十一月十九日、陸相より大統領に致されたるものなれば、之れが今回提出せられたる、擴張案の骨子たるは勿論なり。新に上院を通過したる、此二億六千七百五十九萬七千弗に依り、本案が如何に改正せられんかに就て、多大の興味を以て俟ちつゝある者は、蓋し吾人のみには非ざるべし。

國境の經濟 (七)

五、沿岸寄船地 2

邑前浦 碧潼城附近の浦口にして[illegible]江岸一の殷盛地で、碧潼貿易の中心[illegible]東北楊安縣に通ずる要路に當り、沿[illegible]の股盛地で、[illegible]夏時には船子及び人夫の稼[illegible]しく積卸の貨物莫大なるものがある。船子は大豆其他の穀類を安東に流下し歸途麥粉、鹽、雜貨を積み來る。上流地方並に支那の奧地都邑との取引が頗る頻繁である。

新品場 楚山の上流一里半の地點に在り、渭原郡の[illegible]と相對し又支那側の冷水泉子と對し楚山邑の呑吐口である、輸出品は主に大豆、南草、安東縣、新義州に向ひ、輸入品は日用品の全部とす。戶數二[illegible]

[illegible]

露國に於ける米の需用 (一)

東仁の糯米業者は目下頻に朝鮮米を露國に輸出す可く計畫して居る相だが是は朝鮮に在る米商の必然企つ可きことで然も前途甚だ有望の事業である、其供給の方法さへ宜しきを得れば今後朝鮮米の大部分は露國に於て需用さるゝ事ともなるであらう

露國は誰も知つて居る通り幾多の種族があるが韃靼人の血を受けて居るものが最も多い而して此韃靼人の血を受けたるものは何れも米を好んで食べる然るに今日まで彼等が米を多く食用しないのは其供給の便宜が備つて居らなかつた為である、故に若し廉價にして供給上に便宜を與ふるならば彼等の幾部分は慥に米食者となるに違ひない、とは決して架空の想像では無い吾輩は實驗上確く斯く信じて居る、今茲に一例を擧げて輸出業者の參考に供したいと思ふ。

其れは吾輩が先年西比利亞に雜貨店を經營したときの實驗である。始めて店を開いた其日に米があるかと尋ねた客があつた、販賣用の米はないが自家食料の米があるから欲しければ分與しようと云ふたら其客は喜んでどうか少し分けて貰ひたいと云ふので、五斤ばかり分けてやつた、と所が之を聞き傳へて米を分けてくれと云ふものが續々來るので終に自家食料の米十俵斗りを三日の中に賣り盡くして自分等は却つて麵麭を買て喰ふと云ふ始末になつた事がある。其處で吾輩は米の需用の多い事を知り大に輸入して見ようと考へ、其れには露人が如何樣にして食用するかを研究するの必要があると思ひ、段々聞いて見ると其食べ方には種々ある

お多くは飯にたいてバタを添て食べる中には粟や黍と一所にたいて粥の如くにして喰べるものもある何れも樂み喰ひで日曜とか祝日とか云ふ時にやるのだと云ふ、或る時其處の警察署長と陸軍士官とが連れ立ちて遊びに來たので米の話をして持ちだした所が米の輸入は甚だ賛成である自分等も米は喜んで食べるが邊鄙の土地で其供給が意の如くないので滅多に食べない、供給の便宜さへ備はらば日に一食は米を喰ふ樣にする米は却々甘いものだ早く輸入したらよからうと云ふので吾輩も乘氣になつて黑龍江口の尼哥拉斯科から漁船に便乘して函館に行き越後米と洛北生とを買込で之を九十噸許りの汽船に積込で戻て來た此邊鄙なる地方へ日本米を輸入したのは是が始めである

滿洲だより (大連支局報)

▽大連市の警戒 既報の如く宗社黨若くは其の徒と稱する支那浪人の無賴漢又は是等のために來滿せる浪人のため從來警備の周到を以て聞ゆる大連市も強盜其他の被害續出し町外れの寺兒溝附近、支那人町なる小崗子又は老虎灘方面は殊に以て其筋より交渉の結果柳樹屯駐屯の守備兵の一部を市警戒のため特に派遣する事となり其の衛兵約一中隊は既に入市して晝夜の別なく市の內外を嚴重に取締りつゝあるが之が爲め無賴漢若くは浮浪人の橫行漸く減少し市內外の治安は確實に維持せられ一時動搖せる人心も漸く靜穩に復したれど去れど支那浪人乃至無賴漢を猶永く徘徊せしむることは治安維持上考ふべき事なるを以て當局は相當手段の下に近く之が處分を斷行することなるべしと聞く

▽宗社黨消息 [illegible]

▽大公園の設計 大連には諸種の公園あるも何れも遊歩地に過ぎざる小規模のものに過ぎざれば都府にては露治時代に設けられたる未成の西公園に設備を加へて大公園となすべく武田博士に囑托して目下考案中なるが之と相待つて總費約十一萬圓の二箇年繼續事業として伏見臺より小崗子を經て星ケ浦に通ずる八間幅の自動車專用道路を設くべく猶ほ經費約七萬圓の同上二箇年繼續事業として寺兒溝方面に延長千百二十五間の新道路を開設し其の道路新設と共に滿鐵においてこれに電車を通せんとの計畫もあり人口の增加に伴ひ現在の市區にては既に狹隘を感じつゝあれば是等の計畫あるは寧ろ至當の趨勢といふべし

法人登記公告

株式會社漢湖農工銀行開城支店登記事項中左ノ通變更
取締役白完爀、趙鎭泰、白寅基ハ任期滿了ノ處大正五年八月七日重任
大正五年八月十二日登記
京城地方法院 開城支廳

[illegible]
京城地方法院 春川支廳

株券無效公告

[illegible]
東洋拓殖株式會社

◎書籍案內◎

兩京去留誌 / 隨感錄 / 中山大納言 / 高麗勇 / 豪語 / 雙漢和辭典 / 雀躍 / 明治天皇 / 同 鮮文 / 業平秘史 / 長者星 / 前太平記 / 朝鮮產業指針 / 高杉晉作 / 朝顏栽培法 / 山水隨緣記 / 三國千字文 / 學理的事業經營法 / 財界名士失敗論 / 朝鮮熟語解 / 露國武斷外交

京城太平通壹丁目 京城日報社代理部

新案特許 第三三一八三號

下火ランプ

●養蠶家、工藝家、讀書家に最も適す

特約及び分權御望の方は御相談に應ず

(見本入用の御方は一個代金壹圓御送附次第發送す)

製造元 名古屋市西區廣井町三丁目 伊藤仁太郎

朝鮮鑛業要覽 附朝鮮地質鑛產圖

●朝鮮鑛業界空前の良著 定價壹圓貳拾錢

本書の內容は朝鮮總督府鑛務課係り最新の調査に加ふるに朝鮮鑛業に關する現行の諸法規一切を網羅す鑛業家は勿論苟も朝鮮鑛業に志す人は何人も其一冊を座右に備へ可からざる特に朝鮮地質鑛產圖は鑛務課の專門技師數氏多年全鮮に踏査し心血を注ぎて調査したる精確無比の者にして未だ世上に發表せられたる事なき探鑛者必携の羅針盤なり!!

發行所 京城大和町二丁目五十一番地 朝鮮鑛業研究會
發賣所 京城日報社代理部 京城 大阪屋書店 同 釜山支店

株式會社 第一銀行京城支店

資本金 貳千百五拾萬圓
積立金 九百六拾五萬圓

京城本町二丁目(振替貯金京城一一番)

頭取 佐々木勇之助

銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候
內地並に歐米枢要の地に爲替取引先有之候

日韓書房 新版報告

前田晁譯 西洋文藝叢書 陷穽
田山花袋著 日本一周
神宮司榮著 果實蔬菜 罐詰製法
小野五平著 小野名人講評 古今將棋手合
海賀變哲著 長唄集

京城本町二丁目

英語講義錄

八月開講 三ヶ月卒業

此處に英語速成の秘法有
常用語三千で會話は自由自在
新聞手紙も讀み書き自由
面白い善く解る今役だつ
見本申込往復ハカキに限る
東京神田區表猿樂町九 帝國學會

發行所 大阪屋號 日韓書房 巖松堂 各地支局書肆
大取次 京城日報社代理部

朝鮮語會話

再版賣切れ三版大增補發賣

朝鮮總督府普成法律商業學校講師 西村眞太郎著

定價金八拾錢 郵稅六錢

受驗者必携の資料 ●袖珍總クロース四百頁頗美本

江湖の大歡迎大好評を受けたる本書は今や再版壹萬部を賣盡して尚要求盛なるに付改訂大增補を行ひ三版を發賣するに至れり朝鮮語の智識は本書に說き盡して餘蘊なし特に受驗者に採りては最も親切なる解說者たり是非共一本を机上に供へられよ

山田醫院

本町二丁目四十五 電話二八〇番

內科 小兒科 花柳病科 眼科

呼吸器病 胃腸病 專門 山田萬作
(入院隨時) 尾形周太郎

マーゲン

著しく胃を爽快にする
強胃消化劑
島田藥學博士鑑查

大阪上本町五田畑保藥房

特約店 京城南大門通二 新井藥房

新刊書御案內

[illegible]

大阪屋號書店

品質の優秀は

釀酒 忠勇

絕對の信用を博し 最後の勝利を獲得す

宮內省御用酒釀造元 攝津灘新庄家 若林合名會社

特約店 京城本町三丁目 山本富之助商店

指環及時計

仁川本町 糸岐商店

電話三七〇番 振替京城一七一

廣東軍に休戰命令

北京政府は十一日命令を以て廣東籍援總主任蔡炎に告めり龍濟光は事務を引き繼ぐ以前に於て全責任を負ひ將士を據し治安を保護すべし李烈鈞は士卒を統率し責任の歸する處を執り諸部に嚴命し孰れも即日停戰すべく督軍陸榮廷周省長は目下赴任の途に在り今後命令に遵ひ戰を開くあらば嚴かに討伐を行ひ國規を整ふべしと云へり(北京特電)

廣東三日間の休戰

香港來電に據れば廣東にては三日間の停戰を宣言されたり(上海特電)

蒙匪軍勢を得て南下す

全壽山の遺子金壟臣は開原、四平街の宗社黨を糾合して柳樹縣を占領し將に鄭家屯を襲はんとせるに蒙匪軍は氣勢を得之と聯絡を執らんとて一千名より成る一隊は疾風の如く南下して鄭家屯を距る百支里の處に殺到し鄭家屯は大恐慌を起し奉天支那官憲は甚だ狼狽し目下軍事會議中なり(奉天特電)

英陸相佛首相の協議

英國陸相ロイド、ジョーヂ氏は巴里に在りて佛國首相ブリヤン氏と何事をか協議中なり(倫敦電報)

黑鳩公將軍の轉職

土耳其斯坦總督に任ぜらる

從來リガ方面の露軍を指揮しつゝありたるクロパトキン將軍は土耳其斯坦總督に任ぜられたり(倫敦電報)

巴爾幹にて攻勢開始

佛軍の一部ドイランを占領す

巴爾幹半島に於ける佛軍の一部はサロニカの北方約五十哩に在るドイランを占領したるが是れ巴爾幹半島に於ける聯合軍が新たに攻勢を開始したるものなりと信ぜらる而して目下既に同方面の戰線には戰鬪酣なり(倫敦電報)

▲亞丁來電に據れば聯合軍は更に進軍してドイランを占領せり(倫敦電報)

英飛機格納庫襲擊

ヘーグ將軍十一日夕刻發表の報告に曰くアルクルとソンムとの間に於ては形勢變化なし他の方面に於て英軍航空隊は毎日奇襲を試み居れる外長距離の襲擊を行ひブラッセル鐵道沿線に於けるツエッペリン飛行船格納庫ナムール鐵道停車場飛行船格納庫ビングニー及びクールレイ等を攻擊し最後の二箇所は二回迄襲擊せり此の襲擊に參加したる飛行機六十八隻の中歸還せざりしは只二隻のみなりき(倫敦電報)

露軍敵陣地奪取

露都來電露國公報に曰くタルノポール及びブクサリズの前面に於ける敵軍の陣地全部は露軍の手に歸したり(紐育電報)

俘虜多數

敵軍損害莫大

露國公報に曰く露軍はセント河右岸に於て八月四日以來一萬四千餘の捕虜を獲たり敵軍の損害莫大なり(倫敦電報)

御答禮使

宮相の正式御傳達

波多野宮相は十三日午前八時二十分東京驛發列車にて小田原なる御別邸に伺候し御避暑中の載仁親王殿下に拜謁被仰殿下を露國へ御差遣遊ばさるべき公式の聖旨を御傳達申上げ終つて御別邸御滯在中の同妃殿下の御機嫌を奉伺し即日歸京せり(東京特電)

英外相の魚釣

▲此間のことだ伯爵を賞つて誰やらと[illegible]とつて本職よりも何時[illegible]して體操金のように[illegible]こもグレーは雜魚釣が大のお得意、此處さへあらば何處と限つ[illegible]倫敦の郊外の[illegible]間のお自慢の市場なのだからグレーも平生のあの鮭の水面に珍しく皮肉る一體釣はね自分から魚を釣らう釣らうとしたつて根から駄目自分が魚でなくて魚のように生臭い人間は世[illegible]▲この手で今迄グレーに釣られた魚[illegible]樓して九圓餘の遊興をしたるも無[illegible]錢のとどとて支拂ひを延期し貰ひたるも是亦無錢なりし故告訴せら[illegible]れ恒一郎は京城地方法院にて懲役四[illegible]

御答禮使隨員

既報の如く波多野宮相は十三日小田原に赴き閑院宮別邸に伺候し露國御差遣の御沙汰を正式に御傳達申上げたるが隨員其の他は猶三日中に發表の筈なるも目下決定せる者左の如し(東京特電)

隨行長 侍從武官長陸軍大將 内山小二郎
隨行員 全權公使 安達峰一郎
同 宮内事務官 松井修德
同 皇族附武官陸軍騎兵大佐 中島操

閔丙奭子伺候

十二日入京せる李王職長官閔丙奭子は十三日午前九時鳥居坂御用邸に伺候し李王世子殿下に謁見李王殿下並に李太王殿下の御沙汰を言上する所あり殿下には頗る御滿足の御樣子にて種々の御物語りありたり(東京特電)

北海道會議員

本月九日より十日に亙り北海道々會議員選擧を行ひたるが當選者の黨派別は政友會二十一名同志會十八名純政友會二名純同志會一名なり(東京特電)

明年度の新事業

大正六年度に於ける總督府新規事業の大體計畫案は寺内總督の東上以前に於て既に其の閲覽を經たるが這は極めて概要的のものにして殆んど各部局の希望事項に過ぎず之れが具體的計畫は目下度支部に於て各部局を綜合審議中なれば其成案を見るには猶多少の日子を費す可く從つて其如何なるものなるかは今日尚之を報する能はざるも唯だ明年度は農商工部度支部及び土木局に於て一二の計畫ある外特に注目す可きもの無く其の內農商工部に屬する事業は殆んど確定し居れる模樣なり

朝鮮米將來觀

生產額及輸移出見込額

朝鮮米の露國輸出は京仁の當業者に於て夫々準備中なりと云へども未だ諸般の交涉捗々しく進まず聞は同業者間に種々商略上の暗鬪を生じ居る等の事傳へられ居れども早晚契約の調印を見るに至るべく何は兎もあれ朝鮮米の販路として露國は一大顧客なれば同國に對する精米輸出が幸にし一部投機的商人の乘ずる所とならず著實にして有力なる當業者に依て進行せられ從來此方面より蒙りたる精米の品價をして向上せしむるを得ば今後共陸續取引を行はるゝ年度の米の見込充分なりと云ふ。最近總督府に於て調査したる所によれば大正三

▲作付反別百萬町歩にして之より一千二百萬石の收穫を舉げ居れり而して從來是等生產米の內譯米として輸移出されたるものを見るに大正三年度に於て支那十萬二百四十七石、內地三十六萬九千九百十四石、露西亞には一千七百九十石を輸出し總計に於て四十七萬一千九百八十一石を輸出し其他は全部朝鮮內にて消費されたるものなるが露西亞には別に同年度に於て約十萬五千石を輸出し居れり、將來總督府及び其他當局者の指導する米作農業の發達と水利事業の普及等により未墾地の開發せらるゝもの或は地目變換等により

▲今後約三十年間に於て約二十四五萬町歩の水田を增加し之より生產するもの約四百萬石及び其他の陸稻生產額等を合算する時は約三千萬石以上に達す可し而して現在朝鮮に於ける米の消費量を見るに內地人は雜穀を食する者少なきが故に一人一箇年の米消費量は日本內地に於けるものより約二割多きものとして探算せば一人一箇年の消費量一石二斗に當り朝鮮人の消費量にありては一箇年の生產高より其輸移出入高を差引し殘高より朝鮮在留內地人の消費高を控除し之を朝鮮人口を以て除したるものと推定せば一人一箇年の消費量五斗五升に當る斯て今後約三十年間內地人の消費量は現在のものと著しく異ならざるものとし朝鮮人は

▲生活程度の向上に伴ひ增加するものとせば其米の消費量も亦略內地人と同樣の程度に達す可きを以て在留內地人が約一百萬人朝鮮人が約千七百五十萬人に達すと假定して三十年後に於ける消費量總額は一千五百八十七萬七千數百石となるべし以上の如き推算よりせば前記の期間後に於て僅に五百萬石以上の輸移出を爲し得ること想像されたる可きを以て朝鮮米の販路に就ては今日より充分なる研究調査を遂げ置くの必要ある可しと云ふ

國境を視察して

土地調査の進行=鮮支人混耕の狀

鈴木土地調査局長談

予の今回の國境方面視察は主として測地及び地形測量の現狀を視るにあつた、元來土地調査局の外業は之を二大別にする事が出來る、乃ち一は

▲測地作業 で田畑宅地等を一筆毎に調査測量し他は地形測量と稱し之は參謀本部發行の地圖を作る基となるのである、所で一筆地の測量は開局以來漸次步を進め既に南鮮方面を終り漸次西北鮮の山間方面に押し詰め來る十月末迄に全部終了する順序となつた、此の調査班十六班目下尤も困難な地點に入り込んで居るし、方地形測量も同じく今は漸く西北鮮に接近し此冬の嚴寒結氷期に入るまでに全部作業を終る豫定で四班の調査班は天險と惡鬪しつゝ働らいてゐる、予は親しく其の實況を視て獎勵を行ひ又其々訓示をやらうと云ふのであつた、所が幸ひ各地に於る測地地形の兩作業は豫定の如く

▲順調に進行 し殊に本年は南鮮地方に於て多雨だが國境方面は雨も烈しからず要するに天候の障碍が少ないから此の狀態で行けば多分豫定期間に終了するだらうと思ふ、何しろ行政百般の基礎となる土地調査は困難な事業で就き今春工藤調理課長が詳細に結果を調べて來たが今日より見れば尙ほ考慮を要する點が少なくない、で吾々は其の狀態に鑑み最善の方法を執りつゝ行つてゐるが現に土地調査未斷に際し局員の不安を滋からしむるは其の成績に惡影響があるから調査局員の他官廳への特別任用を先般來府令で決定して貰つたし又調査が終了すれば特殊の賞與を授與する事となつたそれでも尙ほ調査の精確を圖る必要があり過般總督の訓示に副ひ外業

▲特別檢查班 を四班組織し班長に局高等官を任じ既に各地に出張したが前述西北鮮に於ける測地地形兩作業班の進行する跡に隨伴して一々其の成績を考査するのであるから直接事業の成績に影響し從事員の一大注意を起してゐる、如斯して事業はさしたる誤謬なく豫定の如く終る事と信じてゐる、此行滿浦鎭から鴨綠江を渡つて對岸支那領輯安縣に行き知事にも會ひ鮮人の移住狀態を視察した、輯安縣は西間島とも稱すべき土地だが山岳多く三百方里の面積を有してゐるけれど餘りよい縣ではない、然し鮮人は仲々入り込んでゐる、同縣の支那人は一萬五千乃至二萬內外らしいが之れに對し鮮人は二萬乃至二萬五千の多數を算する良田畑の營農者として

▲鮮支人を比較 すると其れは問題にならぬ程鮮人が劣つてゐる併し鮮人は荒地を耕やす事が巧く山の手の火田の如き土地や濕地は朝鮮人が專門に耕作してゐる、支那人は火田や濕地は引合はぬからとて全く作らぬ、で支那人は少許の小作料を收めて鮮人に作らせてゐるから輯安縣に入れば目の屆く限り火田が多數の鮮人により奇麗に耕作されてゐる無論作物は支那人より餘程鮮人のが劣るけれど鮮人も相當な生活は出來て行く譯だ、そんな風で鮮人の數が支那人より餘程多いけれど、支那人は平野部の良地に陣まり鮮人は山間僻地若くは高地に點在し其の耕作地が各地に點在してゐる爲め利害の衝突なく頗る親密に生活してゐる移民も惡んだ風に入つて行けば何等の問題も起らず行くだらう

貸下金と農銀

朝鮮各農工銀行に對する政府貸下金は同銀行等の營業狀態及び政府持株への配當は大正五年下半期より之を爲すべき筈となり居れるも各農銀中一二を除けは其の營業狀態未だ貸下金の返還及び政府持株配當困難に付此程來何れも其の延期方を申請中なるが多分認可さるべしと今各農銀の受け居る政府貸下金を擧ぐれば左の如し

漢湖農銀	三三九、二〇〇圓
平安農銀	三九六、五〇〇
全州農銀	六〇、〇〇〇
光州農銀	九〇、〇〇〇
成鏡農銀	一六〇、〇〇〇
慶尚農銀	二九〇、〇〇〇

栃內中將著發

滿洲視察の途にある海軍省技術本部長海軍中將栃內曾次郎氏は副官海軍中佐小林躋造氏を隨へ十三日午後九時南大門驛著入京巴城館に投宿せり尙中將は十四日午前九時十分南大門驛發にて平壤に向ひ同地寺洞の鑛業所を視察し一泊の上北行すべしと

市川少將著京

第三十九旅團長陸軍少將市川堅太郎氏は陸軍中佐新井龜太郎氏及陸軍大尉岡田乙吉氏を隨へ十三日午後七時三十分平壤より入京巴城館に投せり

關屋局長經過

有馬溫泉にて病氣重態なる學務局長關屋貞三郎氏の容態に就き十三日總督府に達せる電報に依れば關屋局長は十一日早朝より腦充血の爲め昏睡狀態に陷りしかば直ちに醫師の來診を乞ひ胃部を切開して血液をとりたるが正午頃は殆んど脈も絕ゆる程にて危險に瀕せり午後京都より看護婦等來りしも引續き昏睡狀態を脫せず十二日に至り意識稍明瞭となれり午前小川醫學博士京都より來診し稍輕快に赴き元氣附けり十三日朝來變異なきも一切面會を謝絕し充分の手當を加へつゝあり意識は殆んど明瞭となれるも昨日に少しく良況あり食慾も全く無し十三十四兩日は最も大切の時期にて之れを經過せば安心なりとの事なりと云々とあり

重石輸移出增加

朝鮮產重石の昨年七月以降本年六月末迄に至る一箇年間の輸移出數量は約七百噸百二十萬圓に上る由なるが本年の前半期に入り數量金額共に俄然增加し居れり

黑崎參事官入京

法制局參事官黑崎定三氏は十三日午後九時釜山より入京浦尾に投せり

人事消息

▲黑澤陸軍中佐(關東都督府附武官)十三日夜入京龍山太陽館に投宿
▲小澗元司氏(久原社員)十三日夜入京山本旅館へ
▲尾山直治氏(同技師)同上
▲丹羽民三郎氏(長野縣立農學校長)十三日夜入京突羽旅館へ
▲山川淺吉氏(玉突名手)同上
▲藤田義雄氏(同)同上
▲岩岡保作氏(九州帝大工科教授)十三日入京浦尾へ
▲遠藤政直氏(同講師)同上
▲ケイスビン氏▲カイサ氏▲アーン氏(以上米人)十三日夜入京朝鮮ホテルへ

南吾北語

退却したと云つて居た蒙匪は洮南附近で勢揃をして鄭家屯から約四十支里の地に押し寄せて來たと云ふ▲此奴は妙だ討伐隊は索倫山迄蒙匪を追ひ込んだ筈だのにヒョックリ鄭家屯附近に來るなんて幾等蒙匪が神出鬼沒でもまさか天狗でもあるまい▲而も長春で失敗した宗社黨も四平街で蒙匪と聯絡を執り相呼應して起たんとして居ると云ふ▲其の樣な約束ではなかつたと顯を捻つても落ち付いて居る譯には行くまい▲此の四平街附近の宗社黨と云ふのは多分金鼎臣の子で東三省では大臣は彼の金壽山に違ひない▲大分勢力がある▲今後は長春で失敗した宗社黨の殘黨や馬賊を集めて扶國軍と云ふのを作り黃龍旗を翻して其勢ひ猖獗で各所で軍營を擊破して居る▲事實斯うなれば討伐軍が今迄大に匪軍を破つて數百を殺したなんて報告は何だか尻尾を出し相になつて來た▲『前エー』と勢能く號令をかけて置て早速『回れー右ッ』ぢや蒙匪のお相手は思ひもよらぬ▲蒙匪や宗社黨の後ろには日本が居るなんて張督軍は妙な事を云つて居るが▲日本こそ迷惑千萬其れや討伐隊より蒙匪が強いから此の樣な考へも起さう▲其う云ふ事を考へるよりも討伐隊が最少し強くなる事を考へるが好い▲ソーレ早く何うかせないと全く手が付けられぬ樣になりはせないかね▲敢て他人の癇氣を頭痛に病む譯ぢやないけれど

▲低氣壓位置北京附近▲低氣壓示度七百五十粍▲進行方向南東▲記事南東の風強し▲襲飛區域平安北道黃海[illegible]

眼科 內科 小兒科 京城黃金町三丁目赤門通(電話二四四三番) 入院隨意 本田醫院 院長 本田建義

京城バサー勸商場開場延期
申込みの絕好機會を失する勿れ
◆京城バサーは來る廿五日開場の定期なりしも設計變更二十六日落成の爲め
◆是迄賣店申込の方も賣場の變更に伴ひ從來の申込を取消し更めて至急申込を願ます
◆京城バサーの賣品は商人向にて如何なる物でも立處に用を便じ且つ廉價に提供する頗る
◆新時代の要求に應じ生る商戰場裡に勝利者たらん進步的諸君は直ちに申込あれ
◆希望者は現場實地に就き契約す開館期は各賣店主と協議の上決定します
京城黃金町三丁目三〇八(大上友太郎方) 京城バサー臨時事務所 電話二五一〇、八一三番

明治公債株式會社朝鮮支店 ▲外務社員募集 京城府東拓會社 電話一九〇八番(振替京城二五五〇番)

太物類各種足袋問屋 染手拭木綿並に足袋原料 足袋並にカバー製造販賣
由印大阪足袋一手販賣 明治足袋會社特約販賣
大阪市東區唐物町堺筋角 柿定商店 電話(圓)東一四七七番 振替口座大阪二三七五番 登錄商標

▲營業科目及相場表は御一報次第送呈仕候
京城永樂町二丁目(商品陳列館裏門通) 酒井婦人病院 入院隨意 電話二六〇〇番

內科 胃腸病 診察夜九時迄 京城本町一丁目 石川醫院 電話一二七、一二九〇番

特許願三〇七一三七四號 騰寫版の覇王
諸官衙銀行會社各學校商店常備品
御國式經濟騰寫版
本品の八大特色
一 在來品に見る能はざる本品には伸縮自在の特色あり
一 在來品の如き高價な原料を除き經濟簡易輕便の特色あり
一 和洋筆を併用し肉筆の儘最鮮明迅速に印寫の特色あり
一 十一色摺を同時に印寫し石版の如き手數を要せざる特色あり
一 本品は誰にも容易に製造し且印寫作業出來得る特色あり
一 本品は價格廉なる事到底他品の及ばざる經濟的特色あり
一 本品は寒暑に侵れず永年保存に耐へ得るの特色あり
一 一名一匣印刷異稱の如印刷費廉價又他品の及ばざる特色あり
■本御國式騰寫版が何故に如斯各所の常備品として歡迎を受つゝあるか在來幾種の騰寫器に比し前記八大特色の然からしむる所以にあり
京城漢江通り元京町 製造元 御國騰寫堂本店 電話五七番六二八番
仁川海岸通り一の六 製造元 御國騰寫堂支店 電話九一五番
▲全鮮各一道に限り特約店を募る 御申込次第明細書送呈す

內科 小兒科 (入院隨意) 京城府龍山元町(憲兵隊側) 幾野醫院 電話二〇四番

した案外狹い、グレー、此の[illegible]
なのだから人並の道樂を一つ持つて
居た「一體道樂と云ふものは人間に
▲グレーの道樂も人並か或は[illegible]
よく有る釣道樂と云ふ[illegible]釣の
日でも暑さへたり込むのださうなが
▲或る時何かの夜會で釣の話に花が
咲いた、夜會てなものは何時でも人
は撥者の道樂なのだ[illegible]
のお蔭で、もう水の[illegible]世界は違つてゐるから大丈夫」と[illegible]
合で其處の魚の腹の底がチャンと解る 云つてヒ、、、と笑つた

舞ひ姿美しく ―露國女優―

浦鹽から（二）女優の世界

▼品行方正＝落付いた深み＝勅任待遇 ▼年俸二萬ルーブル▲無言劇の役者

一體露西亞の社交シイズンは十月から三月位までの間であるが朝と夕と心持よく涼しい浦鹽では歐露と違つて殆ど一年中同じやうに

◆社交界も 賑やかであるし樣々の催しなどもある殊に夏は歐露の方から避暑ながらオペラやドラマやバレットの俳優が來るので却々好い劇が見られる勿論俳優の數が少いから露都あたりで見るやうな華やかな完全のものは見られないけれども俳優はペテログラードの帝室劇場アレクサンドリンスキー座やマリンスキー座へ出勤する一流の

◆俳優など も時々見る事が能きる露國で單に俳優と云へば殆ど女優を云ふのであつて勿論男優も少なくないが又名優が多いがさう云ふものゝ、如うに思はれて居るが亦實際露西亞の女優は美しい第一非常に氣品が高い佛蘭西のやうに女優の華派々々しい處がなくじつと落付いた深みを持つて居る

◆尤も女優 を養成する時からして其の撰擇が非常に八ケ間しい美人である事は言ふ迄もなく第一女優になる者は其の家筋が好くなければならぬ兩親の品行方正なものでなければならぬ資産も可成に無ければならぬ、そんな斯んなの資格を具備した上に嚴重の體格檢査を行つてから始めて女優學校の入學を許される大低十二才位からださうである、學校では普通學科の外に

◆音樂文藝 及三四個國の語學を教へる其の內の優秀なものは撰ばれて帝室劇場の出勤を命せられるのである帝室劇場に出勤していゝ處になると勅任待遇で三萬ルーブル以上の年俸を貰つて居る者が少くない女優は三十五六歲か四十位まで舞臺へ出るがそれ以後は大抵劇場には出なくて弟子の養成をするかまたは貴族の持ち者になるのだがしかし退職金などもごつさり貰へるから皆な

◆一生安樂 に生活して行ける、露國で最も美しいのはバレットの女優であるバレットは以前伊太利あたりで盛んに行はれた無言劇であるが今では本場の伊太利や佛蘭西よりも露國の方が盛んになつて技藝も著しい發達を遂げて居るバレットとオペラは多く同じ俳優がやつて居るが

◆ドラマは 全然別に成て居るペトログラードの帝室劇場でもマリンスキー座はバレットとオペラとのみを演じアレクサンドリンスキー座は專らドラマを演ずる事に成つて居る作品はバレット、オペラ、ドラマともに多く外國ものを演つて居るが此の內の五分位は上沙翁ものである

素人園藝家の御歷々

金剛山や濟州島から＝香雪夫人の五十圓の柏＝三十圓の支那鉢

日本人の盆栽いじりと云ふのも隨分有名なもので、其日暮しの勞働者迄が鉢物の一つや二つ持たないものはなく、猫の額のやうな庭の隅迄も利用して

■朝顏の一本も植よう と云ふ性質を持つて居る。京城の盆栽道樂も近來長足の進步で大小取混ぜ十數軒の盆栽家、花屋等から可成に高價なものが賣買されて居る、五月から七月一ぱいにかけて開かれる明治町の植木市ですら毎日の賣上總高多きは三百圓少なきも百四五十圓からの植木類が捌かれて居つたのを見ても其一般が窺はれる

■園藝と一口に 云ふものゝ、大物を買込んで自分の庭に植わるもの、鉢物の盆栽類を樂しむもの單に四季每の草花例へば菊、朝顏の類に金をかけるもの等の大體三種類がある大物買の中では一旦自分の庭に植込んで置いて相當な

■相場が出來た時に 賣らうと云ふやうなしたゝか者もある、大物買ひで有名なのは商買人では大和町の大舘と云ふ古道具屋、素人筋では李王家を始め民間側では山口太兵衞、中村再造、森勝次、進辰馬、漢城銀行の森重作の諸氏で就中山口さんはお庭の柏などはどれでも數百圓のものだと云ふ今年明治町で賣れた植木の內で柏の五間物が李王職の金東完氏の香雪夫人が大枚五十圓を出して買つたのを第一とせられて居る、盆栽物は明治町迄で五六錢からせめて五六圓位の

■所謂仕入物を 買つて仕立るのと清香園內に設けた共樂會などの植木市で入札して買つたのと今一つは丁度婦人の着物に流行を追ふ樣な調子で人並のものは平凡だからと態々

■金剛山や濟州島邊 から取寄せて育てると云ふ御熱心なのもある、逸品所藏家として誡られて居るのは鮮銀の三島理事、李王職の末松事務官、總監部の大塚副官等を筆頭に普通學校長の妹尾彰氏、鍾路通り生橋、南大門通の脇田氏等も有名である、草物類となれば比較的少額な金で手に入れられる爲に大抵の者が一鉢や二鉢持つて居ないものはないそれでも

■道に仕立方と なれば前の年から土や肥料の心配をして四月の芽萌頃から假植、本植等を經て愈な九月に花を咲かす迄には却々多大な時間と相當な金も要ることになる從つて

■本氣になつて作ら うとすれば盆栽以上に手數のかゝる道樂である、先づ菊の方での名人は李王職の村上事務官、明治町の田中大和町の多久島氏であつて朝顏では何んと云つても總督府內務部の大道通氏の右に出づるものはなく之に次ぐは京城電氣會社の林參事及び同社の小林、太平町の森山氏等の如きは各數十鉢又は二三百鉢も持つて居られると云ふことである。序に書いて見たいことは是等の

■園藝に用ふる 鉢の値段であるが盆栽物の上等になれば支那鉢の一個二十圓三十圓と云ふものが使はれて居り菊や朝顏類になると工業傳習所又は

■永登浦等で燒いた 素燒の鉢が大鉢十錢中鉢六錢小鉢二錢五厘位で賣られて居る、肥土の採取には何れの園藝家も苦心する所で光熙門外の埃塵腐敗土を取つて作るものと園藝屋から買込むのとある是も上等で一圓二十五錢下等で四十五錢位のもある、唯京城の園藝家が一番苦心する所は

■冬の防寒裝置 であつて折角苦心した盆栽も草花類も枯らして終ふものが多いことで若し專門家が大仕掛な溫室でも設け冬季に鉢物類を預るなら相互に多大の利益があらうと思はれる

◇漢江に水天宮樣

神官には權藤四郎介氏がよか

回此頃漢江で頻りに溺死者がある事は京城人士に取りからぬ威嚇である。夫れに就て是れは又非常にいゝ處に思い付いた野田大塊翁の曰く 回『そりや漢江には水天宮樣が祭つて無いからタイ、久留米の水天宮樣ば河畔に持つた筑後河などでは一人だつて溺死者などと云ふ不吉なものは出したことはなかせ。是れは是非共漢江畔適宜の地點を選んで水天宮樣ば祭るべしだ』言ふ迄もなく大塊翁は筑後河畔柳河の人である。回水天宮樣が祭てあるなしで水死人があるかないかは迷信の何のと云ふ人もあらうが其處は氣は心で靈驗いやちこなるものもあらうが第一何れ丈け其水天宮樣は繁昌するか知れやしない夫れも赤京城名物の一たり得る。——と云ふ處迄は至極大眞面目であつたが例の茶目氣が出ないではゐない回愈々水天宮樣ば祭る事となれば是非神官が一人要る譯だが我輩が成つてやつてもいゝけれど我輩の樣な禿頭ではつりあはぬ。夫れには丁度探しても無い樣な一人がある。夫れは李王職の權藤四郎介氏だと云ふ。回『彼ならば頭の恰構から顏付から風姿から神官として申し分ない。もつて來いの人物で、其上生まれは久留米だから水天宮樣の事なら知らぬ事は無か。敢て京城人士に薦む』と云ふ譯である。權藤さんが聞いたら眩度其神官然とした顏を顰めるに違ひない。

●悲雨蕭々 哀愁を喚る

慘死學生の葬儀

甲武信嶽に於て慘死を遂げたる帝大學生安川半右衞門、小山秀三、藤井彥七郎及び深川小學校教員、山室林次郎の葬儀は既報の如く十三日午前九時青山齋場に於て執行せられたり此の日會葬する者山川帝大總長、瀧尾男爵、仙波陸軍中將、一高教授等以下親戚故舊七百餘名細雨蕭々として天も亦此の四靑年の慘死を痛めるものゝ如く人をして一入哀を催ふさしめたり四靑年の遺骨は靑山墓地に合葬せられたり（東京特電）

●少佐割腹

憂欝症に罹りて

本年三月下旬特別任務を帶び英京倫敦に出張仰せ付けられたる陸軍少佐田村明十郎氏は去る八日自動車に搭乘の際運轉手の過失より自動車轉覆し氏は後頭部を打ち爾來治療中なりしが夫れより氏は憂鬱症となり快々として樂しまず一室に引き籠り居りしが此の程遂に毛布の上に端座して下腹部に軍刀を突き立て自殺を遂げたりとの電報陸軍省に到著せり因に擇堂つね子（三八）夫人とし子（三〇）は東京府下西大久保に住居し夫人との間に春子（八）春雄（六）まさ子（四）の三兒あり（東京特電）

●十三日間海上に漂ふ

鹿兒島縣下山川港を拔錨し大島郡十島に向け航行中の石油發動機船漁船第一南洋丸は去月下旬寶島沖合航行中遙かの海洋上に小船の如きもの見ゆるより速力を加へて近附たるに

▲一本の帆柱に 衣類を以つて帆に代へたる小舟が浪の間に〳〵漂流し居るより全く遭難船ならんと大聲にて呼ぶも一人の人影さへ知れざるより不審に思ひ幾回となく船の周圍を回轉する內船中より一人の男が頭を擡げ救ひを求むるものゝ如くなるより更に船を接近したるに船中には六人の男ある身體は骨と皮とになりて言語さへ發する能はざるばかりに疲勞して打臥し居るより直ちに應急手當を施すと共に種々問ひ試むれば彼等は聞き取り難き位の小聲にて僅かに臺灣と答へたるのみされば件の六人を本船に移し粥を與へ

▲飢を凌がしめ 懇に手當をなしつゝ鹿兒島縣下の下屋久村に到著し部落民の援助を請ひ醫師の手當を加へ靑年團は收容所を設け交互に看護したる甲斐あり一同は漸次健康を恢復しつゝあり彼等は臺灣桃園廳の者にて沖繩縣八重山炭坑坑夫として就業務役中餘りに酷使せらるゝと賃金不足等に不滿を抱き同國人八名相謀りて大膽にも大海を橫斷して逃亡せんと企て夜陰に乘じ竊に鑛主の船を乘出したるも何樣船の

▲操縱に不慣れ とて針路さへ定かならず折柄急變したる大荒に遭ふ爲もなく太平洋の洋上に唯だ運命を天に任し風浪に搖まれ食物飲料等の多くは浪に浚はれ食はず飲まず十三日間漂流し八名の內二名は暴風の際怒濤に浚はれ行方不明となりたるものと判明せり（門司支局）

■改造の一圓紙幣

數字が變つたばかり

今回改造された一圓紙幣はいよ〳〵來る十五日より發行する事となつた其紙質や色彩は從前と少しも變りはなく唯日本數字が亞羅比亞數字に變つたばかりである改造の理由は從來の一圓紙幣は番號が日本數字であるから長く巾を取つて近頃の樣に番號が多くなると紙面の模樣の部分にも頗る不體裁であり且其數字の上下に箭と號とを附記する時には間々左からと右からとの兩樣に讀む樣な誤りに陷る場合もあり其上に五圓紙幣なぞは亞羅比亞文字になつて居り此の方が經驗上頗る明瞭である所から一圓紙幣も改正したそうである

●劇藥自殺を企つ

本町二丁目洗濯業前田末吉內縁の妻藤代たみゑ（三）は去る十日午後二時頃夫末吉が得意廻りに出でたる不在中苛性曹達を多量に服用し自殺を遂げんとしたるも死に切れず苦悶せる處へ末吉が歸り合せて大いに驚き直に中央病院へ擔ぎ込み手當を受けさせ目下自宅にて治療中なるがみねと末吉とは夫婦仲も至つて睦まじく格別自殺の原因となるべき事なしと云へば多分精神に異狀を呈したる結果なるべくタミヱは餘程重態なるも多分生命には異狀なかるべしと

●怪しい男

十日午後五時頃平壤府九里自轉車店金炳鉉方に價格四十圓位の自轉車一輛を賣卸せんとなし居る怪しき內地人あるを平壤署の刑事が認めて擧動怪しと警察に同行取調べたるに同人は山口縣豊浦郡小月生れ當時住所不定の高瀨正雄（二六）と云ひ其の前夜九時頃鎭南浦稅關倉庫附近の一軒家前に立て掛けありたる物を窃取し其儘平壤に乘り來り賣り捌はんとせし事を自白したれば直ちに引致さる

●衣類を喰ふ

京城齊藥町三丁目居住滋賀縣野州郡祇王村生れの酒井滿次郎（三八）は本年四月下旬黃金町三丁目高樓某より黑羽二重紋付外一點二十圓の洗濯及び紋直しの依賴を受け一圓二十錢の料金を受取りたる上之れを橫領して本町二丁目の某質屋に四圓に入質したるを手初めに外數名より衣類の洗濯時計の修繕等の名義にて知人より預りたる物品を悉く橫領入質したること發覺し本町署に引致さる

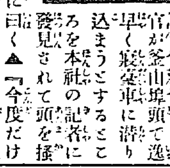
●六人組の强盜

全北全州郡飛鳳面外月里柳化汝（四三）柳國鉉（四三）柳公範（三三）柳澄根（三二）李圖局（三二）軌九三（二三）等は明治四十一年十月中金山郡礪山面內康里の山道にて通行中なりし氏名不詳の鮮人行商二名を慘殺して携帶品を强奪したること此程に至り發覺し何れも裡里憲兵分隊に檢擧されたり

●圖々しい露店商人 京城櫻井町一丁目果物商沈龍錫（二三）は八月七日夜本町三丁目商業銀行前にて露店營業中或婦人が果物を買ひたる際メリンス七尺を紙に包みたるものを置き忘れたるを窃取して發見され本町署に引致さる

●靴を浚ふ 江原道洪川郡生れの柳俊淑（二〇）は去る三日午後八時頃京城本町三丁目日高某より靴一足を搔つ浚ひ本町署に捕はる

●自轉車を窃取す 京城本町三丁目飮食店濱野某方雇人なりし釜山生れの許丸伊（三九）は前科二犯あり昨年十二月中南山町二丁目西村某の自轉車一臺を窃取して此程捕はれ京城地方法院にて懲役一年六箇月に處分さる



▲外務省の柴參政官が釜山埠頭で逸早く展望車に潜り込まうとする處を本社の記者に發見されて頭を搔きながらの述懷に曰く▲『今度だけは見逃して呉れ給へ。兎ても僕の滿州行の任務は內容なんか話せるものか。大阪でも大阪毎日の記者先生に襲擊されたので同行してゐた五百木君を柴參政官だといつて僕が紹介したら五百木君も旨く跋を合せて滔々と支那問題を捲したてたので翌日の新聞にはそれがすつかり僕の談として載つたわけさ。尤も僕は小池政務局長にあれは僕の談ではないと電報で言つてやつて置いたがね兎に角君等の襲擊の猛烈なのには閉口するよ』▲巴城舘に滯在してる小玉香象氏の話に近頃米國にゐる日本人は勞働者でも一日九弗乃ち十八圓の收入がある。金が欲しいなら米國に行く可しだと

村生れ宿富恒[illegible]郎（三）同[illegible]野下町生れの佐藤眞（三）の兩名は去[illegible]して登樓し恒一郎は娼妓玉糸眞は久[illegible]月九日夜龍山彌生遊廓不二廼家に登一彌を名指として五圓餘の遊興をな[illegible]

●暴風警報（八月十三日午後三時二十分發）▲警戒風雨還かるべし

正氣堂名刺舖 京城本町二 電話二一九五番 振替京城一二八三番 期日正確送料無料

京日案內

普通（一回前金三十錢割引 一回每に金五錢增）
番外（一回前金六十錢割引 一回每に金五錢增）
▼申込後中途掲載中止の節は料金返戻せず

●貸家 漢陽公園南裏 三坂通 淸凉眞に夏しらず官吏向 管理人 龍山印刷局先 畑中 575

●有望事業 ◯合資的出資を求む 御希望の方は電話一九六五番迄 26

●店員入用 但し確實なる保證人ある者 一名本人來談 京城旭町壹丁目 川西食料品店 35

●募集 金融業家の御方へ 月給者の御方へは秘密貸 花園町八七 日掛 月賦 濟崩 大和屋 37

●募集 新事業男女高等外交員を要す 希望者午後六時履歷書携帶の事 京城本町一の四八 朝鮮寫眞通信社 39

▲菓子職見習入用 年齡十五六歲位の者本人來談あれ 黃金町二商品陳列舘通 電一三七一 東京堂 28

●代診生至急入用 希望者は履歷書携帶來談あれ 仁川宮町電話三四五番 松本病院 21

●松汀里光州間自動車は太田木浦間の列車に聯絡す ▲光州加藤自働車運輸部 凡

▼女中入用 但年齡四十五歲前後の者多少裁縫の心得ある者市內に要保證人 本人來談 黃金町三山田文殊堂 25

●學校前文房具店讓る 御希望の方は電話二〇四三番へ 15

◯古本 高價買入 △京城本町三丁目 東京堂書店 599

番外

▼外勤員募集 俸給二十圓以上 經驗の有無を問はず希望者は本人履歷書携帶午前中來談あれ 京城本町四丁目一三二 蓬萊生命保險會社京城出張所內商田 24

▲京春間自働車 加平淸平川間道路改築中京城加平間往復運轉す 水標橋通り 京春自働車商會

◎京城春川間每日午前八時出發 京城春川間自働車賃金片道四圓 ◎南大門通一丁目 廣橋自働車 電話二一九番 主務 金正淵 592組

礦物定量分析 京城府太平通（朝鮮公論社左小路）電話一三四四番 坂元分拆所 4

鑛物分拆 鑛山測量 京城鍾路二ノ九九 金石商會 夫れ夫れ專任技師に依り正確迅速（電話一八九九）559

恩給年金 低利 長期 即時 立替 極秘確實融通 京城永樂町一丁目 商品陳列舘表門前 江州屋本店 568

恩給年金 立替 利子年一割 即時取引退隱料一切 京城櫻井町大和町向 元祖 博多屋本店 572

爲春堂醫院 大正館前 大和町二丁目（日の出橋下る） 內科 小兒科（電話九一八番）598

開業十周年記念品進呈 龍山元町二丁目 電話三三七番 三並金物店 38

院主 古城 吉

醫師一名招聘 內科 年齡卅歲以上委細面談（姓名在社）

醬油の撰擇を誤るは年中の損
試み給へ關東唯一の絕品キハク醬油
醸造高全國に冠たり年額六萬二千石
最大の醸造高は最大の購買力に基けり
最大の購買力は品質優越の實證

醬油 —（キハク印）—

下總國野田町
茂木七郎右衞門釀造
特約店
明治町一丁目
牧野商店
電話二五三番

女鳩
渡邊默禪

〔七四〕 人間の紛失

源作の豫言は瞬間に的中して來た。今まで霽れた青空ばかり見れてゐた北の方にむつ湧いて出たのか。鼠色のべつとりと淡影を滲ましたやうな形雲が、さながら弩級艦の大煙突から吐き出す黒瓦斯のやうな勢ひをもつて、むら〳〵と山の一角に拗つたかと見るうちに、忽ち頭上に吹きひろがつて蓼地に南へ發してゆく。その影が疎い日の光に遮されて、眞白な氷原の上に暗くなつたり明るくなつたりして映つてゐたのも束の間、凄い空氣が慌だしく動搖して來ると最う向ひの峰がひーと唸り始めて、細かな〳〵雪が羽蟻の飛ぶやうに何處からともなく散りかけた。

「さア急げ〳〵。」

子爵は氣が氣でないやうに洋杖をふつて励ました。今し方やつと此處に著いたばかりの勇は息をつく間もなく再び立揚つた。一隊二十三人、足の續く限り、腕の折れるまでと、必死と雪を蹴り路を拓いて進む。その跡から風と雪とが一つになつて、逼さじものと追蒐けるやうに、烈しく追ひ立てた。振回るとちやうど海に立つ龍巻のやうな大きな白い圓柱が幾筋にも現はれて、ぐる〳〵と渦卷いてゐた。そんなのに捲かれたら最期、一たまりもなく吹き飛ばされるのである。

幸ひなことには天狗の土俵場から西は出谷川に下りる傾斜面だつたので思の外に足取が早く、一時間と經たぬうちに目的地の川邊に達することが能きた。もうその時は日がずんぶり暮れて、稲も濃霧のやうな吹雪がひた押しに四方から包圍してゐた。

爺はどうした。おいツ、源作は居らんか。おい、爺!」

子爵と岩影に吹雪を避けた子爵は髭までから〳〵に凍つた顔を苦しげに顰めながら聲高に呼んだ。が、近邊にはなかつた。その聲に探に寄つて來た勇は二人を差覗くやうにして

「あゝ御前、此處にお在ですか、大變です。爺は見えません」

「むツ、見えん!」怪然として「何したんぢや」

「途中までは確かに尖端を切つて歩いてゐたんださうですが、此處へ著いてから見ると綱が解けてゐて、姿が見えなくなつて居るんです。で、今みんなが騒いで居る所ですが、何分にも此の吹雪ですし、おまけに日没後ですから如何することも能きません。仕方がありませんから鬼に角焚火をさせて小屋掛に著手をするやうに命令しました。困つたことが出來ましたですなア」

勇は悄然として太息の下から愁う報告した。子爵は餘りのことに肝が潰れて只目を睜るだけのことであつた。鳩子は傍で心配さうに聞いてゐたが堪りかねて身顫ひしながら

「大野さん、早くどうにかして搜し出して下さい。あの老人の身に萬一のことでもあると、第一娘さんに對して濟みませんわ。私、どんなに怨まれてか知れないのよ。大野さん、お願ひですから早く搜して下さい。」

最う涙聲になつて勇の腕に取著いた、勇は當惑しながらも

「ねゝ、勿論搜索します。しますけれども此の場合……差向き吹雪を避けるだけの露營を先に拵へてからでないと、手も足も出せないですよ。暫くお待ち下さい。能く最善の方法をつくして搜しますから」

と、子爵も考へて

「解うぢや。その方を先に急がしてくれ玉へ。併し困つたのう、大野君。此矢先に左様な變事が……また糧食隊も來んぢやないか。如何したんぢやらう、生駒は……途中で何か故障でも起つたんぢやあるまいか」

「さア、それも非常の懸念です。來ないとなると我々は、來るまで斷食しなければなりません。此の徐底で兵糧責です」

「むゝ、頑ねん〳〵の蹉跌ぢやのう」

齒科診療 櫻井町大正館横(電取次二七〇〇) 滿田齒科醫院

戰後歐洲の婦人

と問はれると其解答は中々困難である。[illegible]戰後の婦人問題は戰後果して什麼うであるか[illegible]婦人問題を材料としてラ[illegible]男子の位置に代つて各種の職業に從[illegible]不和を誘起するのであらうかブリ[illegible]の意見に同する人も大分あるやうで[illegible]ら彼等と相當の職業を與へることと[illegible]さは私慾を確やすことであるから[illegible]故に男の競爭者でなく寧ろ共同者として各種の職業に從事するやうに[illegible]

咸北清津より

▲鐵道工事 師團設置と全鮮の景氣を一人で背負つて立つて居るやうな北鮮地方には各種方面の視察をやり一握千金を夢みた冒險家などの押寄するものが近來少なからざるものであるが扨て此等の旅客を顧客とする旅館では如何なる設備を爲して之を待つかと云ふに別に茲に取立て、言ふ程の旅客の便利になるやうな事もない只だ成るべく安価な料金を以て滿足を與へると云ふに過ぎないらしい

▲地方交通の便としては海陸交通の衝に當る清津港を中心として見るに先づ海上では南方城津元山方面と北方雄基と浦鹽に通ずる三航路がある南方航路に就航して居る船舶は現在三分一御用船の安平、宮島、琴平三隻日本郵船の立神、小倉二隻朝郵の平壤、忠清、京畿、全羅、黄海、成鏡、穩城、鏡城、昌平の九隻計十四隻で中、安平、小倉、立神三隻は清津元山間直航平壤、忠清二隻は清元間只城津一港に寄港するのみで其他は何れも沿岸各小港灣を縫ふて航行するので以上の如く就航船が多い結果船繰の關係もあるか大概毎日位に汽船の發著がある次に北方清津雄基間は平壤、忠清二隻を除いた外の朝郵汽船は悉く就航するのであるが寄港地は清津雄基間の梨津のみである

▲此航路は先日から豆滿江口西水羅に巡航する事となつた此航路も大概隔日位に發著がある次に清津浦鹽間就航船は大阪商船の安平、日本郵船の立神、小倉及び朝郵の平壤、忠清合五隻で平均四五日毎に便船がある都合である此就航船が浦鹽停泊時間は三日乃至五日間であるから往航に乘つて行き悠々浦鹽見物を爲し復航すれば翌日未明に早や清津に到著する

▲更に一方陸上では南方羅南を經て會寧に到ると北方會寧方面に通ずる道路がある何れも輕便鐵道の便がある清津會寧間には毎日二三往復定期客車がある三時間で達する事が出來る清津羅南間は別に定期客車はないが早朝出發すれば三十餘里を一日で其夕刻先方に著する事が出來る此輕鐵臺車は却々の危險で時々脱線して死傷者を出す樣な事がある北鮮旅行者の最も恐怖しつゝあつた所であるが今や清會間の鐵道工事は著々進捗して既に中間驛なる富寧附近までは建築列車運行するに至つたので頼めば便乘も許されるやうになつた本年十一月頃には茂山線と共に營業開始を見るの豫定である更に明年秋迄には會寧迄の鐵道も竣功して全通するに至らば危險千萬な臺車旅行もしなくて濟む事になるであらうから此臺車旅行を一度試むるも面白からう會寧から先き豆滿江を超えて間島に出づる旅行には駄馬に依るより外はない而して會寧龍井村間は一日程にはかゝるが先づ一日會寧龍井村局子街及び會寧から豆滿江の岸を雄基に出づる旅行は[illegible]雄基間は三日行程である

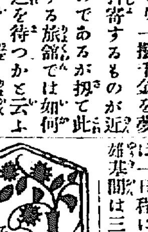
讀者の領分

▲南大門驛の見送人の節なしいことは豫て聞いて居たが來て見て二度吃驚した蔭が課長の管内視察を雇員まで見送らなければならないなんて馬鹿な慣習もあつたもんだ(京城新參)

▲僕は光化門前の廣場で一兩日前の午後五時頃稽古自轉車を四五臺見たそして僕が光化門から明月館に歩いて行く間に朝鮮の老人と内地人の三人の子供連れと人力車とに突き當つたのを見た(實見生)

早稲田工手學校 早稲田大學附屬早稲田工手學校は同大學理工科の諸設備を其儘共用し大學の諸教授擔任し夜間數學を取りて中等技術者を養成する組織にて卒業生の成績は頗る良好にして需要に對し供給不足なる状況なり[illegible]

新荷著 スイス製 懐中時計



十七形ニッケル(開蓋一)	四圓五十錢
同 ノジユーム目盛	十二圓五十錢
十八形 同	十六圓五十錢
十九形 同	十圓廿錢
十六形 金メッキ形刻附蓋	四圓八十錢
十一形 同 琺瑯質飾永色	五圓六十錢
十八形 同 金ペリ(十年保證)	十二圓八十錢
同 同	廿一圓五十錢
十二形 ニッケル時計	五圓
十三形 同	四圓三十錢
同 ラウニーム入	九圓二十錢
同 銀	八圓二十錢
同	十圓五十錢
萬年筆 アメリカ製十四金ペン付	一圓八十錢
同	二圓二十錢
同	三圓八十錢
同	五圓八十錢
同	七圓五十錢
同	九圓

四國保證事示付 正確堅牢 然も實用的にして價格の低廉なる事天下無比

右は今回輸入の商品にて本商會限り之を有し店に無き所のもの供して頂ければ急速御用命小包郵便にて御送附申上候 御注文に對しては代金引換
時計、蓄音器、ミシン機械、自轉車、洋酒、各國貴重輸入商
イングレッシー商會
本店 京城本町二丁目 電話九七二番

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戸、大阪行 立神丸 月 日後五時出帆
○元山、清津、浦鹽行 立神丸 月 日後十時出帆
○元山、城津、浦鹽行 小倉丸 月 日後十時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、清津行 第三琴平丸 月 日後六時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行 第三琴平丸 月 日後六時出帆
○住須奈、嚴原、蠶鼓、博多行 天與丸 毎月二日九日十四日廿一日廿六日 午後十時出帆
釜山港埋立新町 本船取扱店 大池回漕部

阿波共同汽船仁川出帆

○芝罘、大連行 第三共同丸 八月十六日後四時入 八月十八日前九時出
（京畿道廳指定命令航路 大連にては青島行定期船に連絡し輸送貨物取扱仕候 朝鮮鐵道主要驛にて荷客共直航船と同額運賃にて通し輸送取扱可仕候）
○城津、清津、浦鹽行 第一阪鶴丸 月 日後九時出 (元山出帆)
○西湖津沿岸各港を經て雄基行 第三共同丸 元山出帆 月 日前八時出
阿波國共同汽船株式會社
仁川代理店 本町一丁目(電話一〇八番) 山下回漕部
元山代理店 春日町(電話二四四七番) 田口回漕部
京城取次店 南大門(電話二六八・二〇一七) 河村運送店

大阪商船仁川出帆

○外航所屬航路(臨時航路を除く)は運賃御割引の時は五分引を以て本船切符發賣仕候
○群山、木浦、釜山、馬關、神戸大阪行 須磨丸 八月廿六日 後五時出
× 安東丸 八月廿一日
× 天智丸 八月十七日
○鎭南浦、龍岩浦、安東縣行 淳州丸 八月廿四日 後二時出
× 木浦、釜山、嚴原、鄕の浦、長崎行 信濃川丸 八月廿七日 後二時出
○ 信濃川丸 九月十四日
× 鎭南浦、神戸、大阪行 須磨丸 八月十三日 後二時出
○鎭南浦、大連行 信濃川丸 八月廿二日 後二時出
× 信濃川丸 九月九日
○大連直行 日米丸 八月廿五日 正午出帆
△ 福州丸 九月三日
× 群山、釜山、横濱行 福州丸 八月十七日 後二時出
○ 日米丸 九月一日
△清津、浦潮行(元山出帆) 印城津西湖津ニ寄港浦潮不寄港 安平丸 八月廿七日 後二時出
▲ 宮島丸 八月十三日
○上海、基隆、打狗行(大連出帆) 城津丸 九月二日 後六時出
基隆丸 八月廿二日 前四時出
御注意 ○朝鮮鐵道及び南滿洲鐵道會社との船車連絡切符發賣仕候○印は本船出帆約一時間前無賃送迎可致候○×印は一等客御斷り△印は船客御斷り
切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話二二番二八番五五〇番
京城切符發賣所 西國通運會社支店 電話七〇八番
▲中國四國沿岸各港行船客に對し門司方面乘船券は富分門司迄一割以て御取扱仕候

日本郵船仁川出帆

○大連、太沽牛莊行 相模丸 九月七日 後八時出帆
高砂丸 八月十六日 正午出帆
三河丸 八月廿七日 正午出帆
仁川海岸町一丁目 電話十一番 堀回漕部

尼崎汽船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
有代丸 八月廿三日後四時出帆
君か代丸 八月十七日後四時出帆
大吉丸 八月廿六日後四時出帆
神秀丸 八月十二日後四時出帆
仁川海岸通二丁目 電話五十九番 高杉回漕部

朝鮮郵船出帆

本社 電話長二九五二番二三二三番 京城南大門驛前 荷客取次店 松原運送店(電話長一七〇番)
鐵道會社及社外船と荷客連帶輸送の便あり詳細は本社及支店出張所代理店荷客取扱店に御照會を請ふ
○全羅丸 八月三十日
○京畿丸 八月二十日
○黄海丸 八月廿四日
○成鏡丸 八月十四日 } 釜山發
門司より釜山各港寄港雄基間航路
○穩城丸 八月廿一日
○昌平丸 八月十九日
○鏡城丸 八月十五日 } 元山發
元山より各港經由雄基行
○忠清丸 八月三十一日
○平壤丸 八月廿一日 } 元山發
城津清津浦鹽行復航雄基行
○永興丸 毎月廿八回 元山發
北大坪、五里浦行
○盈德丸 八月十六日 釜山發
甘浦九龍浦、浦項各港經由鬱陵島行
○江陵丸 毎日 釜山發 浦項
○護陽丸 長生浦方魚津寄港
○三浦丸 長生浦、麗水、巨文島濟州島各寄港 八月十七日 釜山發
○海州丸 ○百濟丸 毎日 釜山發
○統營丸 三日目毎ニ麗水通行
○順天丸 各港經由麗水行 三日目毎ニ麗水より釜山行に接續 木浦發
○慶興丸 名港經由濟州島行(隔週) 八月十七日 木浦發
○慶興丸 八月十三日 木浦發
○公州丸 多島海濟州島行(月三回) 八月十四日 木浦發
○宗信丸 各港經由 八月十五日 仁川發
○江原丸 海州經由各港鎭南浦又は白翎島行 八月十六日 仁川發
○麗水丸 ○晋州丸 大連、芝罘行 八月廿一日 八月十五日 仁川發
○錦江丸 各港經由木浦行
○南陽丸 江華島、喬桐島、海州行 毎日午前 仁川發

大邱浦項間自動車時間

	一番	二番	三番
上り 浦項發	[illegible]	[illegible]	[illegible]
安康 同	[illegible]	[illegible]	[illegible]
慶州 同	[illegible]	[illegible]	[illegible]
阿火 同	[illegible]	[illegible]	[illegible]
永川 同	[illegible]	[illegible]	[illegible]
河陽 同	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大邱著	[illegible]	[illegible]	[illegible]
下り 大邱發	[illegible]	[illegible]	[illegible]
河陽 同	[illegible]	[illegible]	[illegible]
永川 同	[illegible]	[illegible]	[illegible]
阿火 同	[illegible]	[illegible]	[illegible]
慶州 同	[illegible]	[illegible]	[illegible]
安康 同	[illegible]	[illegible]	[illegible]
浦項著	[illegible]	[illegible]	[illegible]

大塚農場自動車部 大邱出張所 電話一一七番

▲富の道しるべ 山縣五十雄 村上唯吉共著 價十五錢 郵税二錢 京城太平通 振替三〇〇番 京城日報社代理部